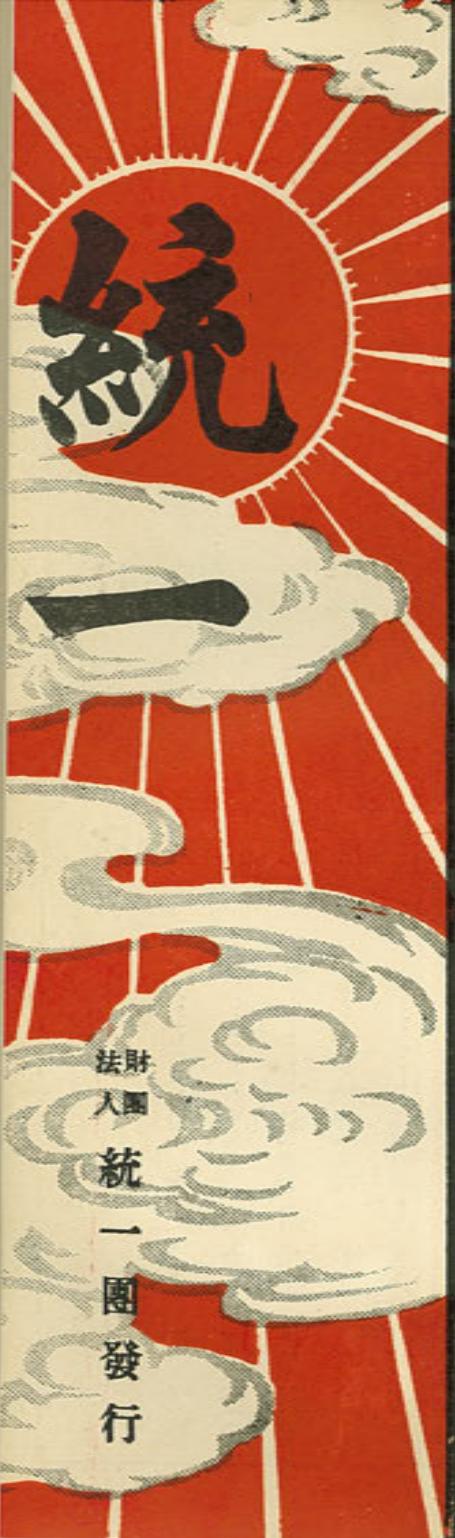


財團  
法人 統一團本部開館記念號

特輯號

號月三年八十三第



目

次

法華經三曰蓮聖人

日生上人(二)

本部開館記事

開會の辭……司會者田中道爾（元）

新光報告  
第三期

卷之三

祝辭……福島日蓮聖人鑽仰會（三一）

祝辭 横濱支部 岩上 浦三郎(三二)

祝辭……横濱法華會 金子光和(三)

感  
話 文學士小林一郎(三)

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

1

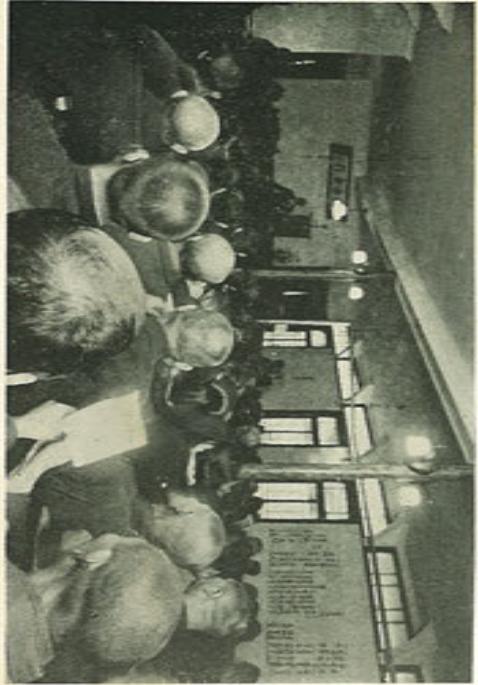
1

卷之三

卷之三



照參圖一二



要法式簡明部本圖一統圖

る、先生の部屋が八疊あります、外に二疊合計十七疊が松下村塾の全体であります、併し其中から伊藤公も山縣公も或は品川彌二郎其他長州有爲の士が其の七疊の部屋から出たのであります。今日堂々たる學校々舎は到る所に雲を突いて居りますけれども、伊藤公山縣公のやうな人は容易に出ないのでありますから、建物などの大きい小さいが何も關係のあるものちやないのであります。此の會館が精神的に幹部諸君の熱心によつて建造せられて、茲に又諸君の如き純潔なる僧俗が集られて此の開館式を舉行せらるゝといふことは眞に慶賀に堪えないことであります。

私は「法華經と日蓮聖人」と題してお話を申上げようと存じますが、此の講題に就てお話をする方面は多々あるのであります、今日は法華經と日蓮聖人と相俟つて、現代及び將來の人々を救ふことが出来る、現代及び將來に生氣あり實功を奏する所の眞の宗教は法華經と日蓮聖人によつて與へらるゝものであるといふことを申上げて見たいと思ふのであります。

世界には歴史的に幾多の宗教が現はれて居る、又幾多の宗教偉人が輩出して居るけれども、今日は文化の一轉機に際してあらゆる事柄が悉く批評の試煉に掛けらるゝやうに相成つて參つたのである、それ故に過去に於て相當の尊敬を得て居つたる宗教又は宗教的偉人も今後は其の尊敬を繫ぎ得るや否やといふことは餘程興味ある問題であります、今や宗教復活の聲は盛であるけれども、思ふ程に復活し得ないのはいろいろの事情があるが、宗教それ自身に於て此の要求に適合するだけの資格を備ふるもののが乏しいといふことが一つの大きな原因であります、今的人は目覺が晩いとばかりは言はれないでのある、目覺めて求めて、自分の理想に適合するものが得られない爲に躊躇して居る人が少しは存して居るであらうと思ふのである。之を世界各國の状勢に見ますれば殆ど其事が事實でありまして、歐洲大戰亂の後に起つた一般の自覺は物質偏傾の文明は最早行き止まりとなつた。今後の人類を救ふもの、又理想の文化は宗教復活の運動であるのみである、附加ふれば社會政策の實行だけれども、社會政策の實行は第二に属するもので、先以て人々の心の奥に宗教の信念を復活しない限は人類の幸福は來らないといふことが、歐洲戰後の人類の大自覺であつたのである。然るにも拘らず歐洲戰爭後數年を経過した今日、それ程に宗教が復活しないといふものは、人々の自覺が足らぬといふよりも、宗教に適當に其等の要求を満たすべき權威あるものがないといふことも大きな原因であらうと思ふのであります。それは吾々が横から考へてもキリスト教の教義信條では現在の進み來つた人智の上から、現代人の理想の上からは容易に元の信仰には歸り得ないものであらうと思はれるのである。さうして又其等の宣傳に從事する宣教師等と語り合つても、私が想像するが如きことを彼等は明に自白して居るのである。之を我が國に考へましても佛教の宗派は多々あるけれども、最早再び起つ能はざるところの宗派は非常に多いのであります。唯歴史的に其の名の存するのみ、多少の勢力は傳統的情力として持つて居りますけれども、現代に於ても最早復活の望なき宗派は澤山あるのであります。どういふ宗派かといへば殆ど皆今後の批判の試煉に落

第する所の宗教であるのであります。之を一々宗旨の名前を擧げて指摘することは致しませぬ、先づ殆ど望なきものではあります。日蓮主義と雖も——法華經主義と雖も下手にやつて居ればやはり過去の遺物として滅亡の厄を免るることは出来ないのであります。況や他の宗派の如きは先以て復活の望はないものであらうと思ひます。現代は一面から見れば非常に堕落腐敗したといふ嘲を受けるのでありますけれども、他面から見ればあらゆる點に於て確かに進化して居るのは事實であります。知識の進歩、又情操に於ても或る意味に於て發達して居る、意識に於ても或る點に於ての變化といふものは必ずしも嘲ることの出來ない程度に現代は進み來つて居るのである。昔のやうに唯お有難主義で以て漠然と信仰を喚起さうとしてもそれは無駄なことであります。又左様にして奥へた信仰の如きは或る事に觸れば直ぐに打壊されてしまふのであります。到底お地藏さんの涎掛や薬師さんの目薬といふ話で今後の宗教は役立つべきものではないのであります。それは餘り考へない人が漠然と宗教に來つて、宗教といふよりは寧ろ迷ひ迷つて、さうして左様な迷信の所に携はる者がありますけれども、これは宗教と言はんよりは寧ろ或る種の煩悶を宗教の形に於て誤魔化されて居るのであります。宗教ではありませんから、さういふものは何處までも人類の間に残りますけれども、此の人類を指導して、人々をして最も正しい理智の光明に立たしめて、最も温かなる情操の光に浴せしめて、最も善良なる意思を發して此事が證明されると思ふのである。其他にも澤山理由がありますが、話の順序上三つの事柄を擧げて此事を明瞭にして置きたいと思ふのであります。

第一法華經なり日蓮聖人の主張する所に於ては、此の眞理の教と申しますか、人間の理智の光を以て研鑽に研鑽を加へて進んで參つた上に信仰が打立てられるところの宗教であります。理智と信仰との結合、哲學と宗教との一致といふことは、二十世紀の文明が擔任して居る唯一の事業と言はれて居るのである、理智に目覺めれば信仰を棄てなければならぬ、信仰を維持せんとするは理智を盲目にしなければならないといふこと程二十世紀の人間に取つて忍び難いことはないのである。吾々は飽くまでも理智

の眼を見開き、さうして信仰の温味を維持して行かうとする二つの要求を併せて握らんとするところのものであります。それが理智の方が目覺めれば信仰が弱つてしまふ、信仰に生きたとすれば理智を盲目にしなければならぬといふことであつたならば、これ程悲しいことはない、右の眼を開けようと思へば左の眼を潰さなければならぬ、左の眼を開けようと思へば右の眼を潰してしまはなければならぬといふこと程情ないことはないのである。長らく人類はそれに悩んで居つて、茲に此の解決が残されたのである、残された結果はいろいろな破綻を來して、物質文明の偏傾などいふことが理智と信仰が調和を缺いたる虚に乘じて起つた次第である、それに依つて様々の事が起つて無明の戦亂となり、階級の鬭争となり、破壊闇黒となつて、人類が煩悶に陥つて居るのである、源を申せば理智と信念の協和を破つたことが此の禍の原動である、將來を教ふにもやはりそこにあるのであります。今のやうにサイエンス知識ぐらゐに引縣つてそれ以上に高遠なる理智を味ふことの出來ない國民は永久に此の禍を脱することが出来ない。又信仰であるからと言つて盲目的な獨斷的な迷信的な傳統的の根據なき信仰に引づられて、理智の眼を鎖して居る信仰に留まつて居る國民は到底榮えることが出来ない、一日も早く目覺めて一面に高遠なる理想を輝かし、一面には熱烈なる情操を發揚して、微妙聰明なる理智の光を以て世に立つて行くといふことでなければならない、左様に人々を教化し指導し向上せしむることが指導者の責である人の行かんとするを抑へ、理智の開かんとするを眠らさんとし、高潔なる理智の發揚を迷信の下に引落

すことをするものは、人を教へるのでない、人を貳するものである。人を教ふのでない、葬るのであるそんなものは教を爲すものでない、名を教に假りて人を殘貳する所のものである、教は人の持つて居るところの性能をヨリ能く發揚せしめなければ教の効能がない、薬はヨリ健康にしなければならぬ、自然に健康に行く者を害ねることをして、それが何の薬の効能があるか。所が從來の宗教は名は宗教であるけれども殆ど薬の名に於て人の健康を害するが如き、人の自然に發達する所の性能を抑壓するやうなことを宗教によつてやつて居つたのである、さういふことは今後の人間は決して之を容認するものでない今までのやうな無條件を以てさういふ宗教が繁榮する程今後の社會は寛容なものでない、必ずそこに缺陷があり差障りがあるのであるならば、遠慮會釋もなく突込んで来て其のやうなものは駄目だといふことを言つて、宗教を改革する聲が叫ばれて來ると考へなければならぬ、面白い世の中である、本當のものが生きる世の中である。

そこで法華經は其の眞理の教として釋迦牟尼が絶大の覺を開いて宇宙の根源に徹し、一面には人々の心の奥を突止めて大智慧を成就したる上から進み來つたものが佛教である、世界の宗教に佛教程理智的な宗教は無論ないのである、外のものは比較にもならない、印度の波羅門教の一種「優婆尼沙士」などは此の哲學味を持つて居るけれども、今日はさういふものは別段弘まつて居らないので、世界に弘まつて居るキリスト教とかマホメット教といふものは淺薄なるものである、哲學上の理智から見たなら

ば殆ど佛教と肩を並ぶべきものではないのである。ひとり佛教は理智の基礎の上に打立てられたる宗教であるが、其中にも法華經は最高の真理を現はして諸法實相を説き、如來の智慧の奥を叩き出して示されたる所の最高真理の教である。佛教の歴史から考へて来ますればいろ／＼哲學的の人物が出来ましたが天台智者に至つて其の哲學の理智が殆ど完成を告げて、嗚呼智者なるかな智者なるかなと云はるゝ位理智の發達した人が法華經に依つて諸法實相の妙理を講歎し、それを更に日蓮聖人出でゝ天台の理智にもう一段の磨きを掛けた眞理の基礎を完成したものが法華經主義、日蓮主義となつて居るのである、此の意味に於て今後理智が妨を爲して宗教に來り得ない人達は唯一つ法華經に依つてのみ救はれるのであります、これは寧ろ日本人がグヅ／＼して居る間には却て泰西の人達が理智の満足するやうな宗教は法華經なりと世界に宣言するの日があると私は考へます。日本人は立派な佛教を持ち法華經の有縁の國民であらながら其の自覺が非常に朦朧として居るのである、法華經は唯日蓮宗のものであるといふやうな考を以て、此の日本文化の中に法華經を有することの大自覺を持たない、是は實に慨歎に堪えないことであります、却て露西亞などは東方聖書の中にも法華經を出版したり、法華經のサンスクリットの原本を出版したり、日露戰爭のあの烈しい中にさういふやうな仕事をやつて居るのである今日も佛教の研究の爲には相當考へて居るといふ話も聞いて居のであります、段々泰西人の間には法華經の眞理に近づいて、バイブルなどゝ違つて法華經の教は眞理の基礎から打立てられたる理想的の

宗教だといふ聲が彼等の口を突いて出る日があるのであらうと思ふのであります。日本人は西洋人が言へば何んでも眞似をするから、そんなことであつたのか、それではといふことでやつて、成程法華經はと言つて後から從屬いて行くであらうと思ふ、そんなことは日本人は構はないのであるから若し向ふで其聲を揚げたら体裁の悪いぐらゐは忘れて法華經々々々と言ひ出すであらうと思ふのである。日蓮聖人がと言つたが如くに、單なる情操の宗教家ではない、唯熱狂的の宗教家ではない、彼は三十二に至るまで二十年間静かに教學の研鑽を積んで、練りに練つて、さうして自分の意見を組立てた所の人であります。大藏經を閲覽せらるゝことも前後五回であります、八宗の宗旨讀まざるものはない、又佛教の方のことをしても其の研鑽は深きに進んで居るのである、我が國の歴史、國體に關しても亦究められて居る、即ち高山博士が言つた通り當時日本の有せる文化の總てを考察して千古の難問題に對して解決を與へし偉人なりと言つて居る如くに、日蓮聖人は智の深みに於て群を抜いて居る所のものである、それはいろいろな事柄によつて證明されるのであります。

更に今後の宗教として必要なことは此の情操の涵養であります、其の情操が唯目的なる情操としては將來到底人心を繋ぐことは出來ないのである、まあ／＼有難くお考へなさいといふやうなことはいけない、やはり吾々の情操が感激するには感激すべく人間の情操を啓發し指導するところの方式が

ちやんとある、情操は美しいものを見れば説明しないでも吾々は美しいと思ふ、月なら月がそこに出て綺麗に光つて居れば、誰が説明しなくとも、ア、良いお月さんでありますなど云ふ、下手な月の繪を描いて圓子ですか月ですか、月ですよと言つて幾ら説明しても決して美しいと思やしない、宗教は情操の上に於て有難いものでなければならぬ、今まで有難くないものをいろ／＼ペタ／＼塗つて暗くして置く、能く見たるならば鼻ペチやである、從來の宗教は、有難いといふ感激を起すといふことに於ては、大体情操を本當に啓發すべき順序方法に據つて居ない、不動さんなら不動さんがどうして有難い、帝釋さんがどうして有難い、若し人間の美の情操から進んで行つたならば、あんなものを見たらびっくりして氣絶してしまふ、有難いことも何んにもない、あれがこらツと言つて見たまへ、誰でも皆引つくり返つてしまふ、人間の情操を啓發すべき美の宗教なるものはちやんと決まって居る、釋迦牟尼は其の點に於ては自分の姿に於ても相好圓滿、三十二相八十種好と言つて、あらゆる點に於て其の組織が人間の情操を啓發すべき所が完備して居る、佛教は非常にさういふ點が整順して居るのである、それが殊に法華經に來つては美の實在といふものに達して居るのであります。唯だ人爲的に作つた美ではない、自然に根據し天然に根據し、所謂哲學の實在に根據したるところの美的説明を爲したるものである、それが人格の如來實在の本佛釋迦如來として現はれる、其の美しき人格の如來は哲學的の實在性を帶びて居るものであつて、何物にも壊されない、美といふものは大抵變遷變化して行く、櫻の花が美しいと言つても散つてしまふ、月は麗はしくても雲に隠れる、美人はやがて敵が寄つてしまふ、美は變遷し變化し、美の實在は維持することは出來ない、人生に於ける美など、いふものは實に有爲轉變の甚しきものである、其の美的實在を示し、如何に風が吹かうが火が燃えやうが大地震が搖らうが變らない壊されない、「我が此の土は安穩にして天人常に充满せり」美の實在、我此土安穩、天人常に充滿、吾々の情操の憧れが壊れる時のないといふことを示したのが法華經である、皆さん的生活は幾ら美しいやうに言つても皆假の生活であるから哲學的には皆壊れて行つてしまふのである、普通の人は哲學上の知識を加へて認識を經ずして、唯淨土には花が咲いて居る鳥が鳴つて居る、綺麗だと言つて居るけれども、それも今の人智が低いからである哲學上の思索を經て進んで行く者には法華經に説かれて居る實在の世界、實在の人格、壽量品の如き説明でなければ吾々の情操を満足せしむるものでない、後は勿論壊れて行つてしまふ、不動さん帝釋さん阿彌陀さん、さういふものは皆實在性のない一時の現はれであるから吹けば飛んでしまふ、宗教の信仰は美に對しても壊れないものでなければ吾々の渴仰の的とはなり得ないのである。釋迦如來が耶輸陀羅娘を棄てゝ去るのも耶輸陀羅娘が永遠に花の如き美人で居るならば棄てないと言つた。迦毘羅衛城が永遠に築ある城であるならば棄てゝ出はしない、併し人生常住の姿はない、悲しい人生の風は迦毘羅衛城と雖も襲うて来るに相違ない。それでは安住の所にあらずと云つて彼は出たのである、宗教はそこに根

ざさなければならぬ、それがなか／＼能く研究して行くといふと、どの宗教もキリスト教の天國とか淨土門の淨土とかいふやうなものは皆哲學的の根據も何もない幻的のものである。幻燈の映書のやうなもので、實在のものでない。ひとり法華經に於て説明せられる美の如來、美の世界、之のみは哲學的の實在性を持つて居るので、而も吾々が其中に共に樂むべき世界なりといふことが根柢深く認められて居る、そこに面白味がある、唯淨土は華が咲いて居る、そんなことは日本の瓦落多共が言つて居る、それは本當に宗教の研究をやらぬからである、日蓮聖人のあの熱烈なる情操は首の座に坐つても『法華經の爲に首斬らるゝは砂を以て黃金に換ゆるが如し』と言つたのは、此の美の實在を確信してゐるからである、即ち法華經の爲に首斬られるのは砂と金と換へるやうなものだといふことを言はれたのは、そこに情操の確信を持つて居るのである、或は『暮れ行く空の雲の色有明方の月の光までも心を催す思なり』夕の空の雲の色夜明の月の光を見ても、佛の慈悲の光は此の月の光よりも尚ほ爽かに尚ほ温かきものであるといふ感激を持つといふものは、それは彼が美の實在を確信したからである。此の月は穏ることがあらうとも、此の花は散ることがあらうとも、我等が信する實在の世界に花は萎む時がないといふことを信じて居るのである。そこに宗教の情操がある、さういふ點に於て法華經と日蓮の其の信念渴仰の現れとは確に將來の此の煩悶多き人生をいろ／＼の苦悶苦闘の爲に精神生活——精神生活と言つても今はつらで言うて居るやうに信心さへすれば煩悶が免れるといふ、そんな簡単な譯に行くものでない

段々濃厚に深刻に人間苦を味つて行く、其時にはお地藏さんの涎掛ぐらぬでは到底人間苦を除いて行く力はない、本當に人生を捧げて研鑽に研鑽を加へ、成程是れだといふ所に達して、さうして本當に美を握つたる時、九死一生の艱難に遭うても、いつも滿足の精神、法悅の喜びに生きることが出来るのである、此の複雑なる壓迫多く苦悶多き人生に於て、此の惱める人を救ふ力を有するものは法華經と日蓮聖人あるのみである。通常のものでは役に立たなくなつた、歸ひ落されてしまふ、不動さんであるとか帝釋さんであるとかいふものが人間を救うて居るといふことは嘘である。或は荒神さんなどいふものは何をやつて居るか、火事がいかぬといふ、荒神さんがあつても幾らでも火事はいく、いかぬことはない、幾らでも焼ける、ほんやり唯やつて居る、そんなものでどうして此の人生の苦が救はれませうか。

もう一つ大事なことは、法華經は意思の上に非常な熱烈なる感化を與へて行くものである、深刻味を帶びて居る所の宗教である、觸るれば熔かさんとする力を以て永遠に燃えて居る如き宗教である。故に日蓮の如き人を生じたのである、日蓮の性格日蓮の主張も觸るれば熔かさんとする所の力を持つて居るこれでなければ將來の人心を救ふことは出來ぬ、益々墮落の淵に進まんとして善い事をするには力を失ひ、悪い事には進んで行くところの淺猿しき此の現實の生活が、教に依つて救はれるといふには、法華經の如き日蓮の如き熱烈鐵をも溶かす所の力あり感化力あるものでなければ、現代の痺れたる人心は救はれない。此の深刻味を帶びて居る熱烈なる所の感化力を持つ點に於て、法華經と日蓮聖人とは現代及

び將來の人々を救ふ特別の力を有するといふことを吾々信するのである、どうぞ諸君は斯様な點に於て眞理の點に於ても情操の點に於ても、意志の點に於ても、法華經及び日蓮宗は特色を有する特別なる力を有する點に注意して、現代及び將來の爲に此の教の隆昌を祈つて載さたいと思ふのであります。此の會館は斯様な教、斯様な主義の爲に人物を養成し、又一面には之を直接に宣傳せんとする爲に設けられたといふことは洵に慶賀に堪えぬ次第であります。私は之を以て此の講演を終ります。(了)

## 法華經講座ト日曜講演

(場所小石川區音羽六丁目電停前統一會館 電話牛込五三三六番)

- 每週木曜日午後七時ヨリ開講セル 小林一郎氏ノ法華經講座ハ好評噴々トシテ回ヲ重ヌルニ從ヒ來聽ヲ増加シ、遠ク横濱、川崎ヨリモ參加ナレ、殊ニ有識者ノ多キハ時代ノ趨勢ト見ルベク寔ニ法國ノ爲メ歡悦ニ堪ヘザルナリ。
- 每日曜日午後二時ヨリ開催セル 日曜講演ハ、目下連續開講ニ河合陟明氏ノ開目抄講義アリ、又小西日喜師等ニヨル時代對應ノ妙化アツテ後、階上御寶前ニ動行作法アレバ求道ノ士女ハ隨喜參加セラルベシ。

## 本部開館式典舉行記事

前號豫告の通り本部新會館竣工に付、紀元の佳節に於て盛大なる開館の式典を舉行することを得た事は、法國の爲に大なる自他の歎びである。

久しく晴天續きであつた天侯が、前日來曇天と變じ明日の事が氣遣はれた、それは恰度壽府に於ける暗雲低迷の觀であつた。併し幸にも二時頃ホンノ少しばかりの白雪がチラ付いたばかりで、その天意知るべしである、清淨なる式典には必ず潔めの雨なり雪を見るそうである。

さて十一日は早朝より大國旗と圓旗を正面入口に交叉されて、人々の來館をお待ちすると間もなく福島の岩井氏が見えた。其後約一時間ばかりして同支

部の中村夫人が來館され、幾程も經たぬ十時半頃に同師會其他の有志が、品川妙國寺に於ける恩師の展墓報告と御遺族に御挨拶を済ませて馳せ付けた。

午後正一時の定刻に於て小西日喜師大導師として莊嚴なる法要が營まれた。そこには顯本系では笠川

管長を始め井村大僧正も是非御列席さるゝ豫定であつたが、急に寺用突發とかで遺憾ながらお顔が見えなかつたけれど共、今成権大僧正を始め中川僧正等、木村権大僧正御異例の爲め代理、鈴木権大僧正も代理其他等々、日蓮宗よりは清水龍山師規則正しく定期前に見えられ、柴田一能師は遅刻、其他本妙法華宗の釋真誓師も列席され、本門法華宗の三吉顯隆師は若干遅れて見えた。在家では大迫大將を筆頭に文部省からも其他知名の閣下團員等で、佛間と應接間は座席もなく、遅れ馳せの方々は遂に廊下に佇居されるゝ有様で甚だ恐縮に感じた。

法筵は方便品より自我偈に進み一同の高唱後、聲子ゴーンと轟くや、上田理事長は起つて左の式辭を捧讀された。

### 式辭

皇紀二千五百九十三年遙かに神武建國の大猷を惟るに、云く、慶を積み暉を重ね上は乾靈國を授くるの徳に答へ下は皇孫正を養ふの心を弘め八絃を蓋うて宇と爲さむ蓋し六合の中心なる乎と、あゝ洪いなる哉建國の大詔、維れ此の紀元の聖節に膺

り、我が財團法人統一團は、佛祖三寶の哀愍感應の下に謹んで開堂の式典を舉ぐ。是れ即ち竊かに法國冥合の深旨を托し、王佛一乘の遠謀を藏する所なり。

夫れ本團は故大僧正本多日生猊下御生前の畫策に端を發し、然も恩師猊下の溘焉として昭和六年春三月御遷化なし給ひしを機として、門下の僧俗淳善能佛子ひとしく一時に奮起し、鬱然として護法護國の願行を事實に具体化せしめむと淨財を喜捨し、勤勞を惜まず、遂に今日會館竣成して茲に一會の大衆皆喜を俱にするに至る、寔に生等恩師に誓ひし所のものを今如實に具現す、聖應院日生上人亦堯爾として哀愍納受し給ふ所あらん、是れ恩師上人常住說法の一鱗鱗なり。然り實に恩師上人の不滅の御身の一分たるもの乎、敢て日生上人の大恩の萬一に報答すると爲し、以て恭しく佛祖三寶尊の照鑑御加被を仰ぎ奉る。

茲に眼を翻へしてつらゝ世相を大觀すれば、社會は思想的にも、經濟的にも、生活の各方面に亘りて人間心靈の宗教的 requirements の聲うたゝ大なると同時に我等が與同罪の責に非ずと云ふ可からず、況んや外には世界の列國虎視耽々として東洋の地を窺ひ、我が神州の君子國をして僅かに極東の一猫額大的地に躊躇せしめんとするあるをや。爰々志を君國に寄せ、思を東亞の天に地馳せ、將又人類共同の福祉を念願する者若し之有らば、安んぞ晏如として醉生夢死の隋眠を貪る可けんや。

此時我が財團法人統一團は起つて統一大主張を提げ、以て家國の危急を救ひ、遂に遠く天祖の授國神武の建國よりこのかた、歷代の烈聖皇猷大謀の發揚實現に寄與する所あらむとす、其の秘鑑は如何。答へて曰く人心をして萬古不磨なる大道に還元趨歸せしめ、實在不滅の大信念に安住せしめて國民思想心靈の根柢的和合統一を圖るにあり、其の統一大道、其の統一大信念とは何ぞ、云く我が日本文化の精粹たる神儒佛三道を一貫し、此皇國固有の精神文化を以て自主的批判の議見を

涵養し、以て西洋思想の取捨選擇を誤らず、固陋を排し、卑屈を去り、中道不偏の妙諦を國家的に體現するに在り、之を開顯主義、折伏主義、大統一主義と云ふ、其の幽旨は實に我大日本國と微妙の因縁淺からざる佛教の開顯統一的大王經典たる法華經純圓一實の妙典に在りて存す。宜なる哉、聖德、傳教、日蓮等所謂法華三聖を始め幾多祖國史上の古聖先賢夙に之を唱導し、宣布し、活潑にして即ち王法佛法の統一所謂法國冥合を示教利導せられたる所以なり。我が恩師聖應院日生上人亦之が爲に一代の奮闘を續けられ、遂に至尊陛下の嘉し給ふ所と成りて曩には、宗祖日蓮聖人に立正大師の證號を追賜し給ひ、更に重ねて立正の勅額を賜ひ、將又大僧正日生猊下自らも多年社會教化の法薰に依りて天盃恩賜の一大美事に接せらる。夫れ紫雲の上より篤く法華經的開顯統一の我が日蓮主義に護國の大事を囁し給ひて以て我徒を顧念し策勵し給ふ、此の機運に適ひ、此の風雲に乘じて我等は立てり矣。同志同行の士女奮はざる可けんや。

維れ此の會堂は、朝な夕な靈交の法樂を奏で寂光の神韻を漂はす所、當演說法曾無他事是れ世尊轉法輪の道場なり、我等佛子修行の壇場なり、實に立正安國の大祈願處たり。生きては應に佛子の本分菩薩行に勇猛精進して法國の大恩に報じ、衆生を度脱し、死しては應に自他俱に共に涅槃不死の淨境に遊樂して勝妙の佛身を成就し、四德波羅蜜の風光に遊ばん、以て佛祖三寶尊乃至聖應院日生上人にも面奉拜顔する事を得むか。

今開堂の式典に當り、一會の大衆と共に謹んで、御賓前に稽首禮拜して以て佛祖法統の擁護と護國愛民の大誓願を披瀝し、恭しく本門常住の三寶乃至諸天善神の威神通力御加被を祈り奉る。

仰ぎ願はくは感應道交哀愍納受あらせ給へ。

南無久遠實成大恩教主釋迦牟尼佛

並びに代々正法正義傳燈の諸大先師  
別しては南無聖應院日生上人等

南無妙法蓮華經

維時昭和八年紀元建國の聖廟

財團法人 統一團

終つて餘韻條々たる聲音に伴ひ、自訓と唱題が一同の清淨な梵音に遠く靈山へ響いたであらう……。

二時より階下の講堂に於て文武要路の各名士淑女参列の中に恭しく式典が舉行された。用意の座席は忽ちに充され、満堂に溢れし諸賢はお氣の毒にも後方と周圍に肩々相摩し佇立せられてゐた姿は全く涙ぐましい深い感にうたれざるを得ぬ。

席定まるや司會者田中道爾氏は左の開會の辭を述べられた。

### 開會の辭

本日紀元節の佳辰に方り、閣下、上人方ははじめ多數諸君の御來臨を辱うし、我が財團法人統一團の本部會館の開館式を舉行することは、吾々一同の欣快措く能はざる所であります。我が統一團が故本多日生祝下に依つて創始せられたのは明治二十九年の末であつて、顧みれば既に三十有八年の星霜を閲して居ります。本多大僧正を中心とする我が統一團の活動は、明治、大正、昭和を通じて我國の國民教化の

意味に於ても悪き意味に於ても、世界注視的となつて居ります、あらゆる羨望、嫉妬、怨嗟の裡に立ちまして、殊に最近國際聯盟の成行は如何なる事態が生ずるか判らない、又其の國際關係の窮迫せる結果は、國內の事情に如何なる大變化を齎すか、是れ亦遁跡し難き形勢であります。近年國難或は非常時といふ語を以て我國の現状を言ひ表はして參りましたけれども、今や其の非常時、國難といふことが最も深刻に、現實の問題として迫つて来て居るのであります。

又今日喧ましく言はれて居るインフレーションといふやうな經濟問題にしましても、國際的に一步重大化して参りますと、日本が今後如何なる經濟状態に陥るか、又其の經濟狀態の推移が如何なる政治的の變革を來すか、又其の政治的變革の結果は如何なる日本全体の大變化となるかといふ、非常な重大問題となつて關聯して居るのであります。外に在つて

は國際聯盟の問題、内に在つてはインフレーションの問題、是は我が日本國民に與へられたる大試験でありまして、此の解決法如何に依つては、我國の前途の運命は全く測るべからざる狀態に在ると謂はなければなりません。是等の國際關係、經濟關係の惡化が更に一段と進んだならば、我國の經濟狀態は或は第二の獨逸になりはしないか、第二の佛蘭西になりますまいか、其の結果最近盛んに言はれて居る政治方面的のファッショ問題が、どういふ形を執つて我國の今後を導いて行くのであるかといふ事を考へますと、あらゆる問題が混沌として輻湊して居つて、一步を誤るならば大事な國體の根本にまで觸れて來はせぬかといふ事が、最も虞られて居るのであります。

最近國家社會主義といふやうなものが非常に力強く擡頭して来ましたけれども、若し吾々國民が儼然たる國體の尊嚴を確かりと認識せずして、單なる制

上に甚大なる影響を與へ來つたことは、諸君の風に御承知のことあります。本多猊下は常に國民思想の動向に深き注意を拂はれ、殊に較近の唯物的な、又デカタン的な思想の跋扈に對しては非常に之を慨歎せられまして、何とかして統一團の活動をモツと深刻に、時代に適應するやうにしなければならないそれが爲には統一團を萬代不易の基礎の上に置かなければならぬといふ事を、常に吾々に語られました、さうして財團法人統一團の設立を企劃せられましたが、其の議半ばならずして、昭和六年三月遂に靈山へ旅立たれてしまひました、吾々一時は全く途方に暮れたのであります。爾來不思議なる経路を辿りまして、本日茲に新なる會館に於て盛大なる開館式を催ほすことが出来るに至つたのであります。今や我國の現状を觀ますに、思想界は混沌として、或は右といひ或は左と言ひ、其の歸趨を失つて居る状態であります。一方日本帝國の地位は、書き

度や經濟上の問題として之を考へ来つたならば、所謂國家社會主義の思想そのものは非常なる毒を含んで居るのであります。今國家社會主義者は口に國家國家と唱へて居りますけれども、彼等の假面を剥ぐと其の根柢には唯物論があり、非國體的な理論が横はつて居るのであります。

斯様な内外の情勢に即して、我國を將來正しく發展せしむる爲には、吾々は一體どうすれば宜いのであらうか。此の秋に於て私共は恩師本多猊下の御遺訓を想ひ泛べるのであります。本多猊下は、今に必ずや日本は大きな國難に逢着するであらう、内も外も、どうしたら宜いか判らぬといふやうな大問題にぶつかるに相違ない、さういふ國民の舉措に迷ふ時に、起つて敢然と指導標準を與ふべきが吾々日蓮主義者の使命に非して何ぞや（拍手）と仰しやつて吾々を鞭撻して下さつたのであります。今や猊下亡き後云於て、吾々は微力でありますけれども、皆様と共に

に力を協せ、心を合せて奮ひ起たなければならないと思ひます。本當に我が國體の尊嚴を認識し、又法華經に依つて人生の眞の意義を確乎と把握して居りましたならば、如何なる經濟上の變動が來ようとも政治上の大變化が來ようとも根本的にそれを解決し得る鍵がそこに在る譯であります。吾々の使命は一層重大と謂はなければなりません。

私共は斯様な覺悟の下に、皆様と共に異體同心となつて、今後此の會館を中心として活動を續けて行きたいと思ふのであります。此の會館が此の儘空洞となつてしまふか、それとも日一日と輝き出して第二、第三の會館が各地に續々と出来るやうになるかといふ事は、偏に皆様の御後援と私共の努力の結果に俟つことゝ思ひますので、本日の日出度き開館式に際しまして、更めて皆様の今後の御後援をお願ひして、開會の辭に代へる次第であります。

（拍手）

續いて磁部理事は壇上に左の如き意味の経過報告をされた。

本日開館式に方りまして朝野知名の僧俗、又顯本法華宗のみならず日蓮宗、本門宗、本門法華宗、本

妙法華宗等各日蓮門下の方々の御來館下さいました前に於て、経過報告を申上けることは、私の非常な歓喜と共に光榮に感する次第であります。

只今も開會の辭に申されたやうに、斯ういふ會館を建設しまする事は、敢て私共の好き好んで成したと申すよりも、恩師本多日生猊下の深い——思召の下に、統一團を財團法人として本部會館を設立して置かうといふ發案をなされました、其の御遺志を繼いで吾々共が皆様の御後援に依つて漸く其の緒に就いた譯であります。

財團計畫の途中に於て宮原理事長が病氣の爲に辭められたのであります。其後に上田理事長が御就任下さいまして、其の結果非常な急速度を以て計畫が進行致しました。御承知の如く昨年の夏財團法人が組織されたに引續きまして、直ちに八月十三日に此の地をトして本部會館建設の地鎮式を營んだので

あります。それから直ちに工事に着手して、漸く今回御覽のやうな會館が出来上つたのであります。此の會館の出來ました大部分の力は、上田理事長の御清援に因るのであります。

此の會館は敷地が約六十坪ありまして、横濱の相馬興信株式會社所有地であつたのを買收致して、急速建築に取掛りました。總建坪は約百坪であります全部で二萬數千圓を費されて居ります。而も御覽の如くに階上に御寶前を安置して居ります。吾々は日々の多忙なる生活に於て、動もすれば心の荒み勝ちなる其の場合に心静かに所謂禪定に入る必要があると思ふのであります。そんな時心ゆくまで御寶前に於て讀經、唱題して、さうして心身を練る必要があると思ひます。其の上に「日は東より西を照す」といふ祖訓に象りまして、御寶前は西の方を向いて即ち洋室（西洋）の方を照らす意味になつて居るのであります。更に階下は御覽の通り講堂と致しまして、廣く大衆に對つて布教をする、所謂自行化他の意味をよく調節して此の會館は出來て居る積りであります。而して屋上は庭園式と致しまして四方の展望

に、又そこでは大自然と最も親しみ得ることが出来ます。是等の設計なり、且つ其竣工に就きましては歸する處、大部分は上田理事長の御力に因ることで吾々は非常に感激を致して居る次第であります。又併せて皆様の精神的、物質的方面に於て多大なる御援助に預かつた結果、漸く此の會館が出來ましたから、今日開館式が舉行されるからと申しても、それが何も大きな歎びといふことにはならぬと思ひます。

大きな會館があつて嬉しいならば、丸の内にでも行けば蹤り上らねばなりますまい。現代の世相は最早行詰つた、如何にして救濟せんとするかに識者は頭腦をしばられてゐるやうですが、過日も大迫大將は「國民が今日のやうな思想になつたといふことは、歸する處自分共の罪である、故に今後は佛教、特に法華經を小學校の教科書に何とか織り込ませるやうにしたいのです」と仰せられたことを思ひまして、先づ國民に法華經の精神を與へねばなりません。

切迫して參りましたから、幾かに其の一端を申上げて経過報告旁、今後皆様が充分此の會館を御活用下さることを此場合に於て特にお願を致す次第であります。(拍手)

續いて上田理事長は拍手裡に起つて左の挨拶を述べられた。

### 挨 拶

只今磯部理事から非常な御讃辭を載きましたが、個々仕事の一部分を擔任して載きましたばかりに斯る御讃辭を載くことは甚だ恐縮する次第であります。

今日は紀元節でありまして、洵にお目出たい結構な日に又このお目出たい開館式が行はれますことは、洵に御同慶に堪へない次第であります。この會館を建てるといふことは、無論本多観下の御遺命の一つではあります、唯この土地が統一團のものになつたとか、西洋館が建つたとかいふことだけでは格別お目出たくもなんともない事かと思ふのであり

國民と申しましても範囲は廣いのでありますから先づ東京市民へ與へたいものであります、それには團員諸君が中堅となつて一般に敷衍して頂きたいのであります。

斯様の發案から本會館に於て、來る十六日、日蓮聖人第七百十二年御生誕聖日から、小林先生に依つて法華經講座を擔任して頂き、爾來毎木曜日晚七時から續講されます。又法華經はどうしても日蓮聖人を通した法華經でなければならぬと信じますが故に法華經と不離の關係にある御遺文の講義が必要と思ひまして、來る十九日の日曜日から毎週日曜日午後二時より同師會員の講演中、特に開目抄講義を河合文學士に依つて開講されますから、眞に護法愛國のこの今日御來館の各位は御自身のみならず、今日不參の御知り合の方々もお誘ひ合されて御來聽下さりこの統一團の本來の使命を互に主伴となり合つて、一路爲法爲國爲大衆に盡させて頂きたいものであります。

詳しい内容や抱負はあとから、私共同師會の面々が申述することになつて居りますので、時間も甚だます。この土地を統一團が買はなければ、誰か他の人が買ふでありますし、斯ういふ西洋館を建てなければ、日本家でも建つであります。統一團の人達が集まらなければ他の人達が住むであります。どうせ東京の土地でありますから、長く空けて置く譯もないだらうと思ふのであります。これを統一團のものとして此處に會館が建つたというて、何故大勢寄つてお目出たがるであらうか、何故こんなに喜ぶのであらうか、茲には自らその理由がなくてはならぬと思ふのであります。その理由に當りますかどうか判りませぬが、少し自分の考を申上げて見たいくつふのであります。

只今も司會者から國難とか非常時とか言はれましたが、これは私共物心附いてから大抵の時には、非常時だ重大事だといふことは、いつの時にも聞いたやうに思ひます、別に今日始めて重大時になつた譯ではないやうに私は思ふので、大抵の政治家とか

識者といふ人は、いつも大衆に向つて非常時だ、重時機であるといふことは言つて居るのであります。さうして又進歩發展する民族、その國では、發展の階段に於いては多くの重大事とか非常時とかいふことを、上下舉つて自覺して居るやうに思ふのであります。隨て重大事とかいふことは今始まつた事でもないのです。それで、今日ほど數字的に極めて明瞭に重大な事實が現れた時は、明治維新の時を除いてはチヨウト無いのではないかと思ひます。

これは經濟上に考へても、又軍事上に考へても、思想的に考へても、あらゆる方面から考へられるのであります。先づ經濟的にこれを觀たらどうだらうか。震災前に於ては日本には金貨が二十二、三億圓は絶えずあつたものであります。それが今は幾ら位になつて居るかといふと、御承知の通り四億三千萬圓ばかりしか無い譯であります。これを個人の懷ろにして見ると、いつも十圓位入つて居つたものが

一圓八十錢か二圓位になつたといふことになると、甚だ心細い次第であります。それが對內的、對外的孰れに向つても大きな信用の失墜であるといふことは明かに判るのであります。随つてその結果今喧しく言はれて居ります爲替の關係でも、昔は、十圓札を一枚持つて行けば五弗の札を取換へて呉れたものが、今は二十圓を持つて行かなれば取換へて呉れない。これがだんと昂じますと三十圓持つて行つても嫌やだと言ふ、百圓持つて行つても取換へて呉れない。最後には丁度露西亞がやりましたやうに札を積んでも外國の一弗とか一磅といふ札と取換へるのは嫌やだ、斯ういふやうな狀態になるのであります。それは眼に見えた算盤で能く判るのであります。その他に關稅の關係に於て、日本の品物がこの頃大分出て來たから、これに一つ稅金を課けて日

本の品物を入れないやうにしてやらうといふことが亞米利加にも始まり、英國にも始まり、歐洲各國に始まり、又歐洲各國の勢力範圍である所の東洋の各殖民地に關稅が設けられるのであります。その結果輸出品として一生懸命造つた所の品物が、バクタリ輸出が止まるといふことにもなる。斯様に爲替の關係、關稅の關係から、日本の海外貿易、延て經濟界といふものが非常に不況に陥つて来る。これをモウ少しハツキリ條文的と言ひますか、作爲的に導いて來るのが、昨今喧ましく言はれて居る所の、國際聯盟の事から引續いて起る經濟封鎖といふものであらうと思ふのであります。

軍事上の事は、この席にも閣下方がお在でになりますが、私等素人には判りませぬけれども、なかなか喧しいやうでありまして、いつ何處で戰争が始まるとのやらサツバリ見當が附かない、戰争は無いと否定出來ないといふ状態であります。

思想的に觀た所で無論さうであります。學校で教へて下さる所の先生が共產黨に同情して資金を出して居る。さういふ所へ習ひに行く生徒學生といふものが忽ちその思想にかぶれるのは、これはモウきまり切つた話であります。親はモウト善い事を教へて貰ふ積りで學校へ上げて置いたものが、皆變な事を教はつて歸つて来る、さういふ人達が中學校の先生になり、小學校の先生になる。さうするとそれに教へられた子供は又同様な結果を導いて来る。斯ういふ状態であります。

斯様に考へて參りますと、如何にも憂慮すべき事柄が各方面に續出して居るのであります。一體日本前途はどうなるのであらうか。斯ういふ國難が頻發するといふことは、やがて日本が滅亡する前提なのであらうか、それとも更に將來に發展活躍する所の一つの段階としての試練だらうか、これをどちらに判断して宜からうかといふことが、この場合私

が皆様と御相談して見たいと思ふ事であります。無論國が亡びてしまふものならば、一生懸命樹いても無駄な話であります。私は日本の國は決して亡びないものと判断したいと思ひます。さうするところは一つの試鍊であると言はなければならぬ。所が唯これが日本が世界的に向上發展する所の一つの試鍊だと言つて見た所で、それはチョット自惚みたやうなこと聞えるのであります。その點をモウ少し深く考へて見なければならぬと思ふのであります。それに先立ちまして、一體日本の民族といふものは白人種に比べて劣つて居るか優つて居るか、優つて居るとすればどういふ點が優つて居るか、劣るどすれば如何なる點が劣等だといふことを吟味して見たいと思ふのであります。これはやはり軍事的の關係とか、經濟的の關係とか別けて考へて見る方が宜いと思ひますが、先づ軍事的の方面ではどうでありますか。横濱の高等商業學校長の田尻先生といふ

方が、昨年獨逸からお歸りになりまして、私は以前教を受けたことがありますので、その方から親しくお話を伺ひました。今伊太利でも獨逸でも、佛蘭西でも英吉利でも、軍需品を製造して居る所の工場で其處の製品が日本の陸海軍から註文を受けたといふことになると、それが非常な宣傳になる、一たび日本の陸海軍がこれを兵器として採用したといふことになると、世界中あらゆる國で、全く無審査でこれを買上げるのである、例へば日本海軍買上といふやうな一つのマークが附きますと、全く無審査で面も如何なる高い値段を出してもこれを買上げる、斯ういふ事を伺つたのであります。これは一體何を物語るかといふと、まだ日本が明治維新から幾年も経たない間に、陸軍にしろ、海軍にしろ、非常な頭腦の明晰な、非常な精力を有つて陸海軍人が、その様式を歐米に採つて、それを日本化して、而も世界何處の國にも敵對して劣らないといふだけの實を擧げ

得た結果であらうと思ふのであります。この方面だけを見ますと、日本の國民といふものは軍事上に掛けては世界に決して劣る民族でないといふことが明かに證明されるのであります。

それでは商賣の方はどうであるか、昔から士族の商法など申しまして、兎角喧嘩に強い者は算盤には疎いといふことにきまつたものであります。最近に示した日本の經濟力といふものは、なか／＼さういふ風な數字が出て居ないのであります。私は綿絲の方に少し關係して居りますので、その方の事を申上げますと、紡績業といふものは、日本では昔お婆さんや娘さんがコツ／＼手でやつて居つた木綿の手織、あれ以外にはなかつたのであります。それが僅に二三十年前、英國から紡績機械を輸入して、あ極めて幼稚な、極めて拙劣なものから始まつたのであります。所がそれが次第に發達致しまして、昭和

三年には一箇月に五、六十萬圓生産されるやうになつた、所がそれが又非常な進歩發達をしまして、昭和四、五、六、七年のこの僅かな年月の間に、その總生産高は百十萬から百二十萬圓に殖えたのであります。さうしてそれは内地の消費ではなくして、その大部分は海外へ進出するやうになつたのであります。數十年前に英國から紡績機械を買入れて始めた所の日本の紡績業は、今や一轉して、その機械を運轉して造つた所の日本の綿絲が、遠く英本國に輸出されるといふ状態になつたのであります。無論東洋方面、南洋方面等、曾て英國が自分の紡績の市場として居つた所は、大半日本が侵蝕してしまつたのであります。遂に昨年は英國のマンチエスターといふ、これは世界で一番最初紡績を始めた所で、有名な紡績の本場であります。そのマンチエスター迄日本の製品が行つたといふので、英國では非常な脅威を感じたのであります。それと同時に世界が曾

て獨逸から受けた所の脅威を、今は日本から受けなければならぬやうな状態になつたのであります。

それでは綿絲だけが日本は左様にうまいのかと言ふと、決してさうではありませぬ。今大抵の人が着て居る所の人絹といふものは、發達してから間がないのであります。殊に日本は天然綿絲を専門にやつて居りますから、人絹の發達を非常に恐れてこれを嫌つて居つた爲に、非常に發達が後れたのであります。それで伊太利や獨逸といふものがこれを盛にやつたのであります。而もその人絹の統計を見ますと、昭和三年頃には僅かに輸出が五百萬封度しかなかつたのであります。それもやはり度といふ數量が出て居るのであります。それもやはり東洋から南洋、曾ては歐羅巴が市場として居つた所を悉く日本が奪取つてしまつたのであります。その他これは私の専門でも何でもありませぬが、電球などでもその通りであります。私が覺えて居る頃

にはランプを點けて居つたのであります。それが電燈に變つた。その電燈はいづれ西洋人から學んだものであります。今は殆ど亞米利加の市場を日本製の電球で壓倒して居る。こればかりは出來なかつたといふ所の自動車の部分も、日本の製品が亞米利加に輸出されるさうであります。

斯ういふ事を考へて見ますと、軍事上には先程申します通り日本は極めて優秀な、又恐るべき發達を遂げて居る。さうして大低算盤の方は疎いと昔から言つて居つた經濟的な方面が、二三年この方殆ど世界を驚かせるばかりの發達を遂げて居るのであります。斯様に經濟的な方面と軍事的方面といふものだけを考へて見ますと——併し恐く國際關係で見ればこれが二つの支柱でありませうが——日本の民族といふものは決して世界の他の白人種に劣る民族ではない。隨て現在の國難といふものは、日本が滅亡に向ふ所の道程ではなくして、進歩發達、向上發展す

る所の階級であるといふ事が、先づさう出點目でもないだらうと思はれるのであります。

所がただ一つ茲に非常に後れて居るものがあるのです。それは思想的方面だらうと思ふのであります。今司會者もいろいろお話になりましたが、私も洵に同感であります。それは思想的方面だらうか、どうして軍人だけが偉く、どうして技術家だけが偉く、商人だけが偉くて、どうしてそれ等ないだらうか、斯う考へられるのであります。

これは教育家が悪い譯ではないでせうし、思想方面を擔任する先生方が悪い譯でもないのだらうと思ひます。まあ設備が悪いとか皆が自覺しないとか、

當り觸りのないことに考へたいと思ひますが、併し實際に於て、誰が悪い、彼が悪いと言つて詮議立する譯ではあります。ただ一つ思想的方面が、或は反國家運動とか商業家がやつたやうに、曾て西洋から仕入れた所の思想を日本化して、再び西を照すやうにならないのだからうか、どうして軍人だけが偉く、どうして技術家だけが偉く、商人だけが偉くて、どうしてそれ等ならないだらうか、斯う考へられるのであります。

そこで先程申したこの統一會館が此處に出来たといふことが何故喜ばなければならぬか、何故大騒ぎをやつてお目出たがるのかといふと、他の建物が建つたのでは、その大事な思想の方面の仕事をやつて呉れないのであります。統一會館が茲に出来て、

始めて本多猊下が多年遺され、又訓練されて來た思想を、これから多くの日本國中の人々に弘めようといふ道場が茲に出來たのであります。が故に、私はこれが非常にお目出たいと思ふのであります。(拍手)

統一會館の使命は非常に重大なものがあると思ひます。さうして吾々のそれに對する抱負といふものも、只今申す通り日本の思想の方面に一つの貢献を

しようといふ、大なる抱負を有つて居るのであります。併しこれは現在ではただ一つの希望に過ぎないのであります。又屢々私が申上げます通り、この事は統一團の理事とか、或は教務とか、さういふ人達ばかりが如何に一生懸命になつてやつた所で、達も出來る事ではないのであります。本多猊下の薰陶を受け、一番最初から統一團といふものに縁の深い皆様方が、各々一人が一人を引受け、十人を引受け百人を引受けるといふ決心を以ておやりを願ふより

外に、これから先進んで行く途は無いのであらうと思ひます。どうか斯ういふ意味に於きまして、折角建ちましたこの統一會館が蜘蛛の巣が張らないやうに、使はない中に根太が腐らないやうに、これがはち切れるやうな勢ひを以て發展して行くやうに、皆様のお力添へを偏へに希望する次第であります。これを以て御挨拶と致します。(拍手)

それより恩師本多御遺族の鄭重なる御挨拶が義夫氏に依つて述べられ、續いて福島支部の祝辭、これは今回特に遙々上京された岩井靄氏代表として朗讀された。

### 開館祝辞

茲ニ昭和八年癸酉新春紀元ノ佳節ヲトシ、財團法人統一團本部ヲ創設セラレ盛大ナル開館ノ式典ヲ舉行如實ニ顯現スペク一層ノ努力ト覺悟ナカル可カラズ。

願クハ此ノ光輝アル統一團新館ノ開館ト共ニ、同志

一同益々戮力邁進シ、一天四海皆歸妙法ノ御聖願ニ

報ヒ奉ラン事ヲ祈テ止マザル所ナリ。

一言以テ祝辭トナス。

南無妙法蓮華經

昭和八年二月十一日

### 統一團 福島支部

次いで福島高商學生の讚仰會代表として福岡駒雄氏は左記祝辭を朗讀された。

### 祝辭

本日茲ニ癸酉新春紀元ノ佳節ヲトシ、財團法人統一

ク佛祖三寶ノ納受アラセラレ、恩師日生上人ノ如何

ニ御讚嘆遊ナル、ヤ計リ知ルヘカラズ。

今ヤ我國ノ現状ハ、内憂外患ノ重大ナル危機ニ直面

セリ。此時ニ際シ、我々日蓮門下ハ須カラク反省自

覺シテ以テ勇猛精進ノ意氣ヲ昂然タラシメ、自他彼此ノ情ナク水魚ノ思ヲナシテ、異體同心ノ祖訓ヲ如

行セラル、今ヤ閻浮統一ノ式壇トシテ帝都ニ其雄大ナル淨舍ヲ見ル、之レ偏ニ幾多ノ先師先輩ノ不借身命ノ協心努力ト、純真ナル信仰ノ現ハレヨリ出ヅル賜ナリト我等支部團員一同ノ感謝法悅ニ堪ヘザル所ナリ。

顧フニ故聖應院日生上人ハ、近代佛教界不世出ノ大偉人ニシテ、宗門ノ大廟清ヲ淨行嚴守シ、佛祖ノ法統ヲ宣揚シ、開顯統一ノ法幢ヲ樹テ、日蓮主義ノ心髓ヲ發揮シ、示道教化ニ知法思國ノ誠ヲ勤修セラル、事五十年、其功將ニ成ラントスルニ當リ遷化セラル。遺弟諸氏恩師ノ遺訓ヲ守リ誓テ遺業ヲ光顯シ、興學布教ノ先驅トナリ、立正安國ノ本旨ニ立脚シ、茲ニ堂々タル教團ヲ建立セラル。是レ正法興隆、皇道繁榮、國運發展、萬民得樂ノ第一歩ナリ、寔ニ遠ク佛祖三寶ノ納受アラセラレ、恩師日生上人ノ如何ニ御讚嘆遊ナル、ヤ計リ知ルヘカラズ。

今ヤ我國ノ現状ハ、内憂外患ノ重大ナル危機ニ直面セリ。此時ニ際シ、我々日蓮門下ハ須カラク反省自覺シテ以テ勇猛精進ノ意氣ヲ昂然タラシメ、自他彼

此ノ情ナク水魚ノ思ヲナシテ、異體同心ノ祖訓ヲ如

喜何物カ之ニ如カン。

顧フニ故本多日生上人創業ノ礎石ヲ樹テ、玲瓏玉ノ如キ温情ヲ以テ克ク吾等ヲ訓育指導セラレ、佛祖ノ

龕召ヲ辱フシ祝辭ヲ述ブルノ光榮ヲ得タリ生等ノ欣

喜何物カ之ニ如カン。

發揮セラレテヨリ爾來星霜茲ニ三十有餘年、其功遂ニ天聽ニ達シ、倍々碎勵ニ擢ンデント割カラニ當リ忽然遷化セラレタリ。サレド日生猊下ノ遺訓ハ末永ク此ノ新館ニ止マリテ、吾等ト共ニ人心教化ノ先驅トナルベキヲ信ズ。加フルニ先輩諸氏ガ不退轉ノ努力ト、眞純ナル信仰トヲ以テシ、本部ノ基礎益々堅ク、將來更ニ隆昌ナラン事ヲ覺ニ。想ヒ此ニ到レバ吾等感慨無量、歡喜胸ニ溢レテ云ハントスル所ヲ盡ス能ハズ。

舰ツテ方今ノ時世ヲ觀ルニ、國家内外共ニ多事多難ニシテ日本國民ノ齋シク緊張努力ヲ要スル秋ナリ、此ノ時ニ本館ノ落成ヲ見タルハ邦家ノ爲メ誠ニ慶賀ニ堪ヘザル所ナリ。

吾等茲ニ遠クハ、釋迦牟尼世尊、宗祖日蓮聖人、恩師聖應院日生上人ノ遺訓ヲ嚴守シ、誓テ遺業ヲ光顯シ、立正安國ノ本旨ニ立脚シ、此ノ純潔ナル淨舍建立ヲ意義アラシメ、正法興隆皇道繁榮國運發展萬民得樂ノ爲メ其ノ力ヲ竭サントシ、生等本日コノ盛典ニ臨ミテ齋シク誓フ所ナリ。

願クハ先輩諸氏モ時運ノ大勢ヲ鑑ミ克ク佛教徒タルヲ好機トシ、我等戮力、益々正法ノ興隆ニ微力ヲ捧ゲ、以テ妙法弘布立正安國ノ一助トナサン矣。

仰ギ願クハ 教主釋尊 哀愍シ納受シ給ハシコトヲ。宗祖、恩師幸ヒニ冥護ヲ垂レ給ハシコトヲ。

南無妙法蓮華經

紀元二五九三年二月十一日

### 統一團 橫濱支部 祝辭

夫レ國ハ法ニ依ツテ昌ヘ、法ハ人ニ依ツテ貴シ、法國冥合、闇浮統一ハ我建國ノ規模ニシテ、聖日蓮ノ唱道セシ大義ナリ。

茲ニ吾穢部滿事氏夙ニ本化大聖人ノ教義信仰ニ傾倒シ、專念一意祖道ノ發揚ニ力メ、或ハ故本多日生上人ニ師事シテ統一誌ノ編輯ニ當リ、或ハ信仰座談會講演會並ニ社會事業ヲ企圖セル等、文筆ニ、言語ニ事業ニ、銳意其實現廣化ヲ念ジ、孜々トシテ倦ム所ヲ知ラズ、而シテ今又浮財ヲ募リテ財團法人統一團ヲ結成シ、宗風宣揚ノ道場統一會館ノ建設ヲ見ル。

本日建國祭ノ佳節ヲトシテ其開堂ノ式典ヲ舉グ、善

ノ使命ヲ達成セラレン事ヲ。  
茲ニ一言所懷ヲ述ベテ祝辭トナス。

昭和八年二月十一日

### 福島高等商業學校

#### 日蓮聖人鑑仰會

續いて横濱支部の祝辭は岩上浦三郎氏に依り、又横濱法華會よりも順次左の祝辭を朗讀された。

#### 祝辭

我等ガ一日モ早カレカシト待望セシ統一團本部開館ノ盛儀モ機運漸ク熟シ、今日紀元ノ佳節ヲ以テ茲ニ催サル、ニハ至リヌ。

嗚呼我等ガ欣幸何事カコレニ過ギン、恭シク惟付スルニ教主釋迦牟尼世尊モ一座ノ大衆ト共ニ歎ビテ領

ブキ合ヒ給ハシク歟。日蓮聖祖、日生上人亦寂光ノ寶刹ニ於テ共々破顛綻居樹シ給フラン。

時今ヤ尋常ニ非ズシテ、内ニハ極左極右ノ對立スルアリ、外ニハ露支歐米ノ威壓スルアリ、内憂外患一時ニ迫リテ國民ハ男女ヲ問ハズ、老幼ヲ論セズ一人トシテ苟安ヲ貪ルヲ許サザルモノアリ、今コノ開館

惟フニ精舍建立ハ弘法利生ノ根元、滅罪修善ノ要津タリ、故ニ祇園林中黃金ヲ展ベ、耆闘幡頭鳳閣ヲ開ク、佛法茲ニ弘傳シ、釋典始メテ流行ス、先継己ニ斯クノ如シ、造堂其レ功懿シトセンヤ。況シヤ當今思想ハ混沌トシテ外ニハ國際的諸問題續出シ、内ニハ奇矯詭激ニ非ズンバ浮華放縱ニ走リ、其弊害ノ底止スル所ヲ知ラズ、政治經濟亦安定ヲ圖ク、須ラクニ世道人心ヲ裨益シ、國民思想ノ統一ヲ圖リ、其歸趣スベキ所ヲ指示シ、以テ祖宗建國ノ洪謨ヲ宣揚セシコト良ニ時宜ニ適シタル快哉事ト謂フベシ。

爰ギ願クハ本化別頭ノ三寶大慈大悲知見照鑑此功德ノ香風法界ヲ扇ギ、善根ノ慈雨萬邦ニ洒ガシ。南無妙法蓮華經

昭和八年二月十一日

### 橫濱法華會 代表 金子光和

これより先に 小林一郎氏は三時迄に他に赴かざるべからずと大急に、上田理事長の挨拶に續いて左の如き御感想を述べられた。

### 感 話

大變我儘なお願を致しまして、今日三時頃までに他に行かなればならぬ約束をして居りますので、先輩の方々を差措いて失禮でありますがお許しを願ひたい。

私何も更まつて申上げたい事も無いのであります、只今上田さんのお話を伺つて居りまして、何だか頭の上から鐵の棒でドカンとやられたやうな氣が致します(笑) 戰争は強い、商賣はうまく行くが、思想の方面だけは及ばない、斯う言はれるどうも閉口です(笑) 併しこれは實際その通りでありまして、吾々共幾らか教育とか思想とかいふやうな事を言つて居る者に取つては、何とも申し様のない事なのであります。マアこれから一つ奮發

は誰が掩へたか、人間が掩へた……、機關車は誰が掩へたか、人間が掩へた……、石炭は誰が掘つたか、人間が掘つた……、さうすると人間の精神的労力がなければ、レールもなければ、機關車もなければ、石炭もありはしない。物質文明ナンといふものは世の中にはない。そんな氣の弱い事を言つてはいけない。物質といふものはナニもその儘で役に立つものではない。人間の力が加はるから始めて物質といふものが役に立つて来るのです。其點の所を今までついついウツカリして居つた。

何故ウツカリして居つたかといふと、大急ぎで西洋の文化を取り入れたからであります、日本が今まで取入れた西洋の文化といふものは、決してその全體ではないのであります、半分だけである御承知の如く徳川三代將軍の頃から世界と交通を絶つて、さうして日本は島の内に閉ぢ籠つてしま

してやうらうか(笑)といふだけの話で、言譯をした所が仕方がない。ナニも私が一人で日本の思想界を背負つて居るのではないから、私が一人で言譯をしなくても宜いのですけれども併し私も從來少しぐらゐは引受けて居るのですから、何とか言譯をしなければならぬかと思ふ。(笑拍手)

そこでこれは一體どうして斯ういふ風になつたのだらうかといふことを考へて見たいと思ふ、世間では西洋の文化を取入れた爲に人間が物質的になつた、斯ういふ風に言ふ人も多いのですが私はさう思はない。一體物質文明ナンて、そんなものがあるのではない。そんな言葉を使ふがおかしい一體物質文明といふものが何處にある、例へばレールがあつて、その上を汽車が走る、その汽車は石炭を焚いて走つて居る。レールも物質だし、汽車も物質だし、石炭も物質だ、だからこれは物質文明ぢやないかと斯う言ふ。けれどもそのレール

つたから世界の様子は些つとも判らない。所が二百年餘り經つた嘉永の頃に至つて、亞米利加人が日本へやつて来て交際へと言ふ。その時に日本人は外國と交際つて善いか惡いか考へて居しない、なにしろ不意に來たのであるから、交際つて損だか得だか、そんな事を考へて居る暇はありません、たゞ交際へと言ふ。交際はなけれどもうするか、交際はなれば俺の方に覺悟があると言ふ。覺悟といふのは軍艦と大砲なんです。こつちには大砲はありはしない、あることはあるけれども怪い大砲だ。上野の彰義隊を射つ爲に、今の醫科大學の門の所に大砲を据えつけて、さうして上野の方を射つた所が、その大砲の彈丸が皆不忍池の中にデヤブン／＼と音を立てゝ落ちてしまつたといふ(笑) さういふ大砲であつた。そんなもので到底外の國と對抗など出来るものではない、向ふは澤山軍艦を持つて來て、澤山大砲を持つて居

る、こつちは何もありはしない、嫌やだと言へばドカンと来る、ドカンとやられ、ば國は滅茶々々になつてしまふ、だから外國に威かされて交際つてしまつた。これは仕方がない、どうも見込まれたら仕様がないといふので交際つてしまつた、損だか得だか判らないけれども、兎にも角にも交際へといふのが、徳川の末に於ける日本の開國といふことの眞實の相である、考へて見れば恥かしい事です、今夜は西洋人が居ないから言ひます。(笑)西洋人が一人でも居ればこんな恥かしい事は言へない、それが實際の事です。丁度いきなり人の胸倉を取つて『お前俺と友達になるか、嫌やら縮めてしまふぞ』と言ふやうなものです。縮められては大變だから眼をバチ／＼しながら、友達になつたといふ位の事なのであります。準備しないで世界と交際つた、これは恥かしいことですが仕様がありませぬ。そこで準備しないで交際つた

に書いてある。その位總てが遠つた。今の品川の停車場の向ふに八ツ山といふ所があります、彼處に佛蘭西人が居つた。その佛蘭西人が道を歩きながら巻煙草を喫ふので燐寸を擦る。さうすると周囲を日本人が一パイ取卷いて「爪から火が出る、これが切支丹といふものだらう」(笑)と言つて大騒ぎをした。そんなに形の上が遠つた。そこで日本人が形の上に吃驚してしまつて、西洋の文化の奥まで傳へる暇が無い爲に、形の上だけを學んで來た、それがこの頃まで續いて来て居る。決して西洋の文化が皆悪い譯ではないが、吾々の珍しい方だけを倣つた、表面だけ倣つた。汽車も架けなければならぬ、電燈も點けなければならぬ、洋服も着なければならぬ、牛肉も食はなければならぬといふ譯で、一體牛肉を食へば體が良くなるものだか、悪くなるものだか、そんなことは判りはない、西洋人が食ふから食はうといふので食つて

んだから、見る物、聞く物、皆吃驚する事だらけ始めて亞米利加や歐羅巴へ行つた連中といふものはたゞモウ吃驚してしまつた。日本では家が高いと言つても、三階より大きい家はありはしない。所が亞米利加へ行つて見ると十階、十五階といふやうな高い家がある。日本では道を歩く時には籠に乘るか、テク／＼歩くかしなければならぬ。所が向ふへ行つて見ると汽車といふものが走つて居るといふのだから驚いてしまつた。有名な日本の文化の起けをなされた福澤諭吉先生の全集を讀んで見ると、始めて亞米利加へ行つた時に、丁度暑い時であつたから麥酒の中に氷を入れて出された。どうも氷が夏あらうナンといふことは知らないから、これはガラスの破片だらうと思つた(笑)。これは日本人を悔つて怪我をさせようと思つてガラスの破片を入れて置きやがつたに違ひない。怪しからぬ事だと思つた(笑)といふことが福澤全集

しまつた。洋服だつてさうです。これが日本人の體に合ふか合はないか判らない、西洋人が着るからこつちも着ようといふ。私なども洋服を着て居りますが、これはマア廉くて良い、和服では一遍捨へてナカ／＼五年も六年も保たない。所が洋服なら、私の洋服も七八年になりますがまだ保つて居る(笑)萬事さういふやうな譯で、西洋の表面だけを真似て、その根本は眞似なかつた。それだから無理はない。

所が西洋の近世の文化といふものは、昨日や今日に出来たものではないのであつて、西洋の近世所謂モダンといふものは日本の鎌倉時代に始まるのである。日本の鎌倉時代に西洋では封建制度が倒れて、さうして町の事は町の者がやらなければならぬ。村の事は村の者がやらなければならぬとなつて、さうして皆が骨折つて捨てたものが、近頃の學問なり、技藝なり、社會組織なり、經濟組

織なっています。だから西洋は六百年掛つて居る。それを日本が三十年ぐらゐで真似ようといふのだからうまく行く譯はない、皆間に合せです。伊藤博文公が憲法起草委員を明治天皇から御下命になつて、憲法を作るに就ては歐羅巴を調べなければならぬといふので歐羅巴に行かれた、獨逸や佛蘭西や英吉利へ行つて、向ふの學者や思想家に會つていろ／＼教を受けた。日本もついこの間までは封建制度でありましたが、今度は封建制度は廢めになつて、天子様が御自分で政治をお執りになるとになりました、日本の天子様は非常に情けの深い天子様でありますから、國民の望みを容れて立憲政治になさらうといふのであります。就てはあなたの國は立憲政治の舊い國ですか萬事お指圖を願ひたい。あなたの國の憲法を拜見したい。あなたの國の議會を傍聴したい。宜しく願ひます。斯う言つて頼んで見るといふと、獨逸人も

英吉利人も佛蘭西人も、皆同じ事を伊藤さんに聽いた、それは結構だ、だがあなたの國の東京はどうなつて居るか、東京は自治制度ですか、東京では市會といふものがあつて相談して居ますか、あなたの國の村はどうですか、村會といふものがあつてやつて居りますか」……伊藤さんはそんな事は初めて聞いた、「私の國にはそんなものはありますね」「歐羅巴では今より六百年昔に、先づ村を自治にして村會でやる、町を自治にして町會でやるそれから一地方々々がうまく行つたから、それを經めて立憲政治といふのを造つたのであつてナカ／＼一朝一夕に出来たものではない。あなたの國では町も村もなにもやらずに於て、いきなり立憲政治にして、國の政治に國民が與かるといふのですかどうも日本人といふものは気が早いですね、驚きましたナ」（笑）聽いたこつちの方は尙更驚いた「そんなものかナ」併し聽いて見れば尤も

だ、自分の町の事が出来ないで國の事など出来る譯がない、こいつはいけないと、いふので、それから伊藤さんが日本へ歸つてから、この事を報告して、「獨逸でも英吉利でも斯ういふ事を言つて居る立憲政治より前に地方自治をやらなければいけないさうだ、聞いて見れば尤もだが、どうしたものだらうナ」と言つた。その時に内務卿を勤めて居られた山縣有朋さんがこの事を聽かれて「それは尤もだ、村の事を村の者が出来ないで、町の事を町の者がやれないで、それで立憲政治といふのは世界に喰はれるだらう、それは急いでやらうぢやないか」といふことになつた。明治天皇の詔に依つて明治二十三年を期して國會を開くといふのだから、その前に地方自治をやらなければならぬといふので、大急ぎで市制、町村制といふやうなものを拵へて、さうして明治二十二年に東京が市になつて、大阪が市になつて、京都、神戸

が市になつて、それからそこらの小さい所が町や村になつた、町會議員や村會議員を皆拵へて、翌二十三年には衆議院議員を選舉することになつた外國が六百年掛つてやつた事を二年で皆やつてしまつた。（笑）だからうまく行くものではない。それが今日累ひをなして居る、何でも表面だけ間に合せにやつて來た。

今日は二月十一日であります、紀元節には私はいつも想ひ出す。明治二十二年のこの日に憲法が發布された、私は小學校の子供でしたが覺えて居ります。大變な雪でした。その中で憲法が發布された、お目出たいといふので東京中のお祭りです。何處でも山車が出て、屋臺が出て、踊りが出て、東京の町中引継返るやうな騒ぎでした。所が何が憲法だか判つて居る人はない（笑）「何がお目出たい『なんだか知らぬがお目出たいんだ』それでやつたのは宜いが、憲法が何だか知りはしな

い、その時に新橋の橋の所で若い女が、二三人立話をして居つた。今日は何のお祭りだらう』なんだから知らないがお目出たいのださうだ』なんだか知らないが天子様が何か下さるのださうだ、下さるもののが大變有難いからお祭りをするのだ』何を下さるのだらう』すると一人の若い女がお茶屋の女中か何かで『妾は知つて居る、昨日お客様に聽いた』と言ふ。他の者が『天子様は何を下さるの』天子様はなんでも絹布の法被を下さるさうだ』(笑)憲法發布を絹布の法被と間違へた時代があつた。

これは今から考へれば馬鹿々々しいやうな話ですが、さういふやうな状態で、なんでも外國の眞似をして、表面だけやつて今日まで來たのであります。ですから魂の籠つた仕事ナンといふものは何もやれはしない。私共も今學校で物を教へて居るけれども學問だつてその通り、外國の學説が日

本に適するか適しないか、そんな事を考へて居る暇はありません。何でも外國人の言つた事は皆有難いと思つて居る、一から十まで外國の書物は皆有難いと思つて習つて來た。現に私もその一人であります。外國人の言ふ事は皆偉い、日本人の言ふ事は皆駄目だと思つて居た。菅原道真曰く『ともにゐなだめ』とでも言ふと『なんだ天神様の言ふことナンか聽くものか』……『獨逸の哲學者カント曰く』と云ふと『ア、成程』……『見えない中から感心してしまふ』(笑)『カントの言ふ事ならそれは本當だ』何と言つたか『カントが言ふには、雨の降る日は天氣が悪いと言つた』『成程真理だナ、流石カントだ』(笑)斯ういふ譯で、モウ外國人の言ふ事はなんでもかんでも感心してしまふ、さういふ時代がズット續いて來た。これは誰が悪いといふのではない、今上田さんに叱られて言譯をする譯ではないが、教育方面だけが悪いのではない。國民全體

が西洋の眞似をすれば宜いといふので、精神の在る所をまるで學ばないで、たゞ形だけを眞似て來たのであります(拍手)それがこの頃までズツと續いて来て居る。

それならその中で戦の事はどうだと言ふと、戦は一生懸命にやらなければ死んでしまう。これも外國の眞似をして大砲や軍艦を揃へたのであるがいざ戦争といふ時に向ふが大砲を撃つて来る『成程』と感心して居る中にドカンと来れば、こつちが死んでしまはなければならぬ。だから戦の事は命懸けだから一生懸命になる。商賣はどうだと言ふと、商賣も戦と同じで、下手をやれば損をしてしまふ。損をすれば腹が空いて死んでしまう。だから戦と商賣は命懸けだから、これは一生懸命になつた。學問や藝術は命懸けでないから、甚だ相濟まぬ事だけども、ツイい加減にやつて、今まで来てしまつた。これが正直な話でどうも仕

様がない、要するに努力が足らぬと言はれゝばその通りナンです。

所が11月になつて見ると、どうもこれではいかぬ。今上田さんが仰しやつたやうに、形の上に於ては西洋に敗けないけれども、精神の置き方が悪い。皆が一生懸命にならない。國家の爲だ、社會の爲だと口では言ふけれども、腹の内は一生懸命になつて居ない。お前達この非常時に對して國家の爲に命を捧げてやれ、己れを犠牲にするのは人間の本懐だぞ』と言つて置いて、腹の内では『どうにもなりはしない。だからコ、はどうしても人間の心の土臺を造るといふことが第一の先決問題である。モウ形の上はこれで宜しい。自動車などに乗つてもさうです。私は獨逸も英吉利も佛蘭西も歩いたけれども、こんな綺麗な自動車で片道五十錢で乗せる所などありはしない、有難い事で

す。今日私は新宿の停車場から此處まで自動車で來たが、五十錢で來る(笑)而も立派な自動車です。若し倫敦で乗つたら三圓は取られる、日本はさういふ點に於ては實に有難い。電燈でも晝間からこんなに點けて置くのは贊澤です(笑)こんな贊澤をして居る所は世界に日本だけです。モウ物質方面に於ては世界に敗けないだけになつて居るのだから、ココはこれで一段落として、これからは人間の心の持ち方を確かりと建直さなければならぬ時が來て居る。(拍手)

日本が非常時だと非非常時でないとか言つて居るが、要するに皆一生懸命にならなければ何にもなりはしない。儉約をしろ、儉約をしろと言つて置いて、早稻田と慶應と野球の試合をやると、その野球の切符が、一圓二十錢のものがだん／＼羅上げられて十五圓になつたことを私は知つて居る。そんな國が一體立行きますか(拍手)。野球を一度見

見ると、白粉くさい女が男を相手にキヤツ／＼ふざけて居る。こんな馬鹿な國は世界の何處にもありはしない、それは紐育だつて、巴里だつて、倫敦だつて、裸躊もあれば、見苦しい事をやる所もあるが、それ後の方でやつて居る、旅人の吾々などには容易に判らないやうに蔭に隠れてやつて居る。悪い事をするならばせめては、恥かしいと思つて蔭でやるといふ位の考があつて然るべきものである。それを日本の大通り東京の一圓大通りといふのは日本の一圓大通りでせう、日本の一圓大通りといふのは東洋に於ける一番の大通りでせう。その東洋に於ける一番の大通りで、宵の中からデヤズをやつてキヤツ／＼騒いでふざけて居るといふやうなことは、日本人は恥を知らないといふ事を世界に廣告するも同じ事である。(拍手)そんな事をやつて居つて國際聯盟が不満だ、日本は正義の國だと言ふ。何處が一體正義の國だか譯

が判らない。

それだから日本が世界に信用を失ふとか、世界に馬鹿にされるといふことは、政治家の罪だとか政府當局の罪だとばかり考へてはいけない。日本國民全體が縮が弛んで居るから馬鹿にされるのだといふことを確かり考へなければいかぬ。これが今大事な事であります。國は自分達の國でありますから、自分達の心の持ち方に依つてこの國を建直さうといふ考を有つより仕方がない、日蓮聖人が「我日本の柱とならん」と仰しやつたそのお言葉は、日蓮聖人お一人のお言葉ではない。お互ひが皆日本の柱となつて日本の國を建直さうといふ決心をしなければ、今の難かしい時は越えられはしない。他人の事ではない、自分達がやらなければいかぬ、國は自分の國ナンだから、自分達が懶けて居つて、自分達がいい加減な事をやつて國を潰しては申譯がない、斯ういふやうに考へて、

るのに一圓二十錢の切符を十五圓で買つて行くといふやうな、連中が、スポーツに依つて國を建直すなどと言ふ、何處を建直して居るのか(拍手)さういふ事が抑々いかぬ。皆の縮が弛んで居る、確かりして居ない、皆がグラ／＼して居るからそんな馬鹿々々しい事が起つて来る。決して私は野球の悪口を言ふ譯ではありません。野球も結構だがそんな馬鹿々々しい事が假にも行はれて居つて、非常時だなどと口に言つたつて何處が非常時だか譯が判らない。總てがさういふ状態でありますて、國民の全體の縮が弛んで居る。だから贊澤をする、贊澤をするといつて悪く言ふが、贊澤をする人が一人悪いのではない、贊澤をさして置く人が悪い。銀座通を歩いて見ると、あつちにもこつちにもカフェーがあつて、そのカフェーといふものが、まだ夜半にならない宵の八時、九時頃から、もうデヤズなどをやつて居る。内を覗いて

私共は遅れたりと雖もこれから一つやう。今は遅れて居るのですけれども、併し遅れたと言つてもやらないよりは良いから、これから一つ建直をしてお互ひが確かりやう、斯ういふ心持を有つてやつて行きたいと思ひます。(拍手)

今日はお目出たい日に大勢お集り下さいまして私の先刻言つた事に對して手を叩いて下さつたそれは私の申す事に賛成だといふ意味で手をお叩きになつたのだと思ひますが、手を叩くだけではつまらない。お互ひに一つやつて戴きたい。自分達が集まつてこの國を建直さなければいかぬのだ。總理大臣に委して置いても駄目です、内閣ナンといふものはそんなに何十年も保つものではない。直ぐその中に送つてしまふ。そんな當局者のみにお頼み申すといふ譯には行かぬ。國の事は國民が自分でやらなければならぬ。自分でやるとするならば、銘々の自分の家の内から、一人でも三

で一つさういふ風にやつて戴きたい、工場で働く方はその方でやつて戴く。銘々が手分をしてこの大事な仕事に全力を注がうといふ申合せをしたいものだと思ひます。

この申合せが出来れば、この會館が出来た意味がある。この會館が出来たつて實は小さなものです寡が知れたものです。併し此處へ集まつてさういふ心持をお互に語り合つて、此處で集まつて申合せをして、世の中に出て行つて、この世の中を良くするといふことが出来れば、この會館の建つた本當の意味があるのです。上田さん始め皆さんがお骨折下さつてお建てになつたこの會館を、さういふやうな意味に活かして行くか、それともこの會館をたゞデッとして無意義に終らせるかといふことは、吾々共の考一つに在るのであります。不肖なりと雖も私は自分の力のあらん限りを以て、この會館の内に於て、志を同じうする

方々と折々集まつてお話を申上げ、只今申すやうな心持の人を一人でも半分でも造出すといふことに、私の力の全體を注ぎたいといふことのお約束を致しまして、今日のお話を終ります。(拍手)

續いて同師會員の數氏の挨拶を左に摘記しておくことは、これ又極めて有意義の次第であると惟はれる。

一體同師會なるものは昭和四年六月の統一誌上冒頭に「所感」と題して日生上人が詳述されて居るを見れば明瞭であります。又其後昭和六年二月號の統一誌上「法統の愛護」の末尾にも、日生上人は「今後生命が長らへますれば尙ほ——この法統の發揮に向つて努力致したいと思うて居りますが、不幸にして壽命がなければ致し方もないと思ひまして、後繼者の青年有志の人には約十名程の人を選んで、どうぞこの法統正脈の擁護といふことを忘れぬやうにして貰ひたいといふので時々寄つて話合つて居る譯でありますから、私が遷化しても直に法脈が断絶することはありませぬ」と、この十名程の人とは

人でも五人でも本當に頼りになる人間を造上げてこれを世の中に送出すといふことでなければ、どうしてもこの國は保つものではないといふことに眼を覺しまして、私共が尊い日蓮聖人の教を奉じて國の柱となるうといふ決心を致し、その決心を以て自分の家の内から本當に頼りになる人間を造出して、これを世に送出すといふ決心をすることが、國を教ふ途であるし、又銘々もさういふ事の爲に役に立つ仕事が出来ますならば、世の中に人間として生れた甲斐のあることであります。斯ういふやうな意味を以て御同様に一つ骨を折つて参りたい。併し私共は今更どうもなりませぬ。これから工場で働く譯にも行きませぬ。商賣をして儲ける譯にも行きませぬ。私共は私共の方の領分で、マア本を讀んだり、理窟を言つたり、この方で一生を終ります。皆これは手分をしてしなければいけませぬから、商賣をなさる方は商賣の方

僧侶側では第一に日生上人、次に小西日喜、和賀義見、梶木顯正、山口智光の諸師であり、俗人側では河合陟明、中村清一、田中道爾、伊東竹三郎、及び礪部浦事の五氏であります。其人々の任や重く、責や大なりであることを此砌りに明白にして置きます。

### 同師會員 小 西 日 喜

閣下、猊下茲に諸上人および満堂の諸君、本日は自佗ともに最も祝賀すべき紀元節に方りまして、財團法人統一團會館の落成式を舉げますことは、まことに欣喜に堪へない所であります。

只今も小林先生のお話がありましたが、徳川幕府の終りに於ては、幕府方は賊軍として官軍からよほど壓迫を受けたのであります。併ながら三百年の徳川の恩顧に報ひようと思つて、不自惜身命に奮闘した一黨の者があります。彼等は決して心中朝廷に弓を引かうと思つて居るのではない、萬世一系の陛下に對しては何等敵對の心を有つて居らぬといふことは、我等は疑つて居らないのであります。然るに何故表面に左様な事を致したかといふことに就ては

お互に一分の同情を以て諒解する譯であります。即ち陛下に對しては忠良なる赤子に違ひない、しかし過ちといふ事はある、その意味に於て完全ではない。さうして又國を思はない者はない、讃國とか開國とか申して論争をやりましたが、日本の國を思はない者はない。

斯の如く日本の國は不思議な歴史を有して居りますが、我が統一團も同様であります。佛祖に歸依し本多上人の法勸を讚嘆する事は變らないのであります、しかし御承知の通り本多上人の晩年に、我等末輩の者が出でて統一閣に於て日曜講演をせよといふ猊下の思召で、微力ながら一分の奉仕を致したのである、是は一に法國の大恩に報ひる赤誠に出でたのであつて、何等他意あるのではない、純潔なる心事に基いて奉仕したのであります。斯の如くして統一閣の日曜講演は、猊下主宰の下に續けられました。其後本多猊下の晩年に統一團の建物としても何等宗門的に制御を受けないやうな道場を建設し、財團にもし、又何等宗門の制肘を受けないやうな、統一團本來の使命に基いて、何宗何派の別なく欣んで參加

し得るやうなものにし、又機關誌として「統一」誌も何等宗門の制肘を受けず、財的援助等を受けずして經營しなければならぬといふ事を信じまして、和賀義見師と共に、新年會の席上に其の意見を申した事もあります。即ち一は本多上人の護法記念會館を建立する事、二は機關誌「統一」を擴充して、本多

上人の護法の大精進を將來と雖も一貫せしめなければならぬといふことを、我等末輩の者が叫んだのであります。併し急にそれは實現しなかつた。約一年ほど経ちまして、猊下の御遺志を奉じて統一團協賛會といふものが組織せられ、財團法人とする目的及び道場會館を建立する目的をハッキリと宣明されたのであります。これは如何にも法華經の靈妙な所以が茲に實現したと思ふ、所謂妙法である、達華である、經である、即ち一貫した精神の表現であります。

更にその後に上田理事長のやうな人が現はれまして、これはモト／＼一番當にして居つた人ではない、固より有力なる後援者ではあつたが、初めから中心に考へて居なかつたのであります、其人が所謂地

涌の菩薩の如く、何處かに居られたのが飛び出して來て、さうして財團の基金二萬圓の約三分の一を醵出され、又此の會館の敷地の買入れから、會館の建設に至るまで、即ち二萬數千金を一人で出された。斯ういふ事は自佗ともに考へて居らぬことであつた即ち南無妙法蓮華經そのものである。

さういふ譯で遂に斯様な自佗とともに感謝に堪へない會館が出來たのであります、私の考へて居る所を卒直に申上げるならば、統一團は、遷化された本多猊下を中心として、財的方面に上田理事長あり、又主として精神的に身を以て非常な努力を續けられた常務理事礪部浦事氏あり、以上の三人、これを財團法人統一團の三尊と名けたいと思ふ。(拍手) 而して私達は、財團法人統一團の設立には、有力なる我が有縁の幹部を勧まして、意義あるサービスをしたのであります。しかし我等はまた揮かつきの方に屬するやうになつた。然りと雖も全然揮をツツボラかしてしまつたならば、甚だ相濟まぬことになるのであります、揮かつぎも必要である。そこで異體同心といふことを以て、語は簡単だけれども吾々の腐

らんとする道念に馬力をかけるのである。動もすると異體異心になり易い、統一團も創立以來或る年齢に達しまして、失禮な言ひ方ですけれども自から空洞が生じたのである、そこに親木の横の方から新しい生命の芽が出たやうな形であります、併ながらその根本は、尊い佛祖を我等の師匠とし、近くは本多上人を吾々の導師として尊崇する以上は、どうか吾等の内面の純潔なる道念を鼓舞して、奉仕いたしたい念あるのみであります。

今日は宗門の先輩の上人方をはじめ、閣下乃至諸君の賑々しき御臨場を得まして此の盛典を舉げることは、自佗ともに眞に慶ばしい事であります。茲に無量の感謝と共に、自ら懺悔して護法の爲に奉仕せんことを誓ふ次第であります。

#### 同師會員 和 賀 義 見

皇紀二千五百九十三年の本月本日、我國として最も記念すべき聖日に於て、我が統一團の會館落成の式典が舉げられることは、まことに感慨無量、深き因縁の存するあることを想ふ者であります。

斯様なる間に三ヶ年を経過致しました、其の間不敏なる吾々として、甚だ慚愧に堪へない事が多かつたのであります。併し佛祖の御加護、聖應院日生上人の御英靈の働き給ふ處、上田理事長の如き、又各理事諸君、並に閣下はじめ大方の御來會各位の御協力に依りまして、本日此の會館の開堂の式典を舉げるといふことは、假令建築は小なりと雖も、その志の存する所、感激に堪へない次第であります。

今や我國は前古未曾有の重大時に直面して居ります、これは誰が悪い、彼が悪いと言ふよりも、國民の精神に、東洋文化の精髓たるところの神、儒、佛三教、日蓮大聖人の立正安國の精神を酌まなかつたといふ事が大失態であると同時に、そこに國民が氣がつかなかつたといふ事が、亦此の禍根を生じたる大原因と申さなければならぬ以上、國難の打開は先づその土臺を成すところの國民の精神の立場から建設して行くべく、そこにお互の國民として奉仕すべき途もあるのであらうと信する次第であります。（拍手）今は決して西洋を學ぶべき時代ではありません、新たな文化を日本の國から創造し、往いて萬

聖應院日生上人は天資英邁、而も佛祖法統の正義を駿して我國文化の精髓を闡明し、而も一代六十五年の間、身を以て唯だ如說修行の一途に勵ましたのであります。然るに晩年御志をお立てになりました其事業いまだ半ならざるに、哀しくも遽の御遷化と相成つたのであります。私共は如何にして猊下の御志、猊下の企てられた事業を守立てることが出来るかと、夙夜に寝ずして只管此の事を考へたのであります。只今も小西講師が申された如く、他意あつて私共は魯鈍に鞭うつたのではありません。只管佛祖法統の正義を宣揚し、我國文化の体系を闡明し、以て時代對應の教化を確立したい、そこに小にしては顯本法華宗の爲に奉仕する所もありませう、擴げては全日蓮門下と共に眞實なる日蓮主義の教線を張ることも出来るであります、更に之を擴大しては、全日本國民と共に國民精神の確立に參加することが出来るであります、更に之を擴ては全人類に向つて東洋文化の精髓を投げかけるといふ大なる使命、此の使命に生きることのみが、吾々の此の世に生きて居る唯一の意義であると考へたからであります。

國の爲に之を頑ち與ふるの覺悟と大なる理想に生きなければなりません。假令小さな種子でありましても、恵みの雨を享け、又大地より滋養分を吸收して倦まず撓まず其の努力を捧げたならば、終には彼の阿里山の大木の如くにもなり得るであります。小さな水滴と雖もその力を協せまする時に、大海の水ともなるのであります。

斯かる意味に於て我が統一團は、聖應院日生上人の掲げられました綱領を駿して、小なる力と雖もこれを綜合し統一して一團となつて、我國の現下の思想界に打つて出でなければならない大なる使命のあることを自らも信じ、又その一分に酬へ奉らんことを誓願いたしまして、御挨拶と致す次第であります。（拍手）

#### 同師會員 榎 木 顯 正

本多猊下が遷化せられて二年内に、此の會館が斯くの如く生れ出ました、此に至ります迄には、本多上人の御精神を一日も速く世の中に顯はしたいといふ一念から、私共は内輪同士で喧嘩をした事も

あります、猛烈に議論をした事もありました。それもこれも今日から振返つて見ますならば、みな本多上人の御精神を形の上に現はしたいといふ一念からあつたのであります。今日このお目出度い席に出まして、何とも言葉で申上げることの出来ない歓喜に心の中は一ぱいであります。

今日御來會の諸君のお顔を拜しますと、御見知り合の方々が非常に多いのであります、曾ては本多上

人より、諱々として上人の御精神を籠められた御教

を、みな一分づつ戴いて居る私共であります。我が統一團の向ふべき道は、既に故總裁本多上人に依つて示されて居ります。今更駄辯を要しません。唯私は皆様にお願申上げたい事が一つあります、それは『我等の統一團』といふことであります。上田理事長や、少數の役員の人々が作った統一團ではなくして、本多上人に依つて薰陶を受けた男も女も、若きも老人も、此の會堂に集まられた皆様は、上下を通して『我等の統一團』といふ事を、ハツキリと心の中に刻み込んで置いて戴きたい。さうしてお互に温かい心を以て、この統一團の大精神、大理想を抱

までも擁護して、やがては日本國民を悉くこの精神理想に導くと共に、延いては世界の上に我が統一團の使命の光を輝かすやうにして行かなければならぬ。さうするには我が統一團は最も温かい、謹法の特別なる精神の結晶であるといふことになつて居なければならぬと思ひます。此事を今日のお目出度い日に附加へて皆様にお願をして、私の御挨拶に代へたいと存じます。(拍手)

#### 同師會員 山口智光

最も意義ふかき建國祭の佳き日に方りまして、新たなる統一團の會堂の開館式を舉げ得ましたことは自らともに大なる慶びであります。本多日生上人は晩年に於きまして、法統の愛護といふ事を特に御憂慮遊ばして、若き同志をおあつめになりまして吳々も御遺囑せられたのであります。私共不思議なる因縁に依りまして、この同師會の一員にお加へ遊ばされた御真意を拜しまして、實に自から光榮に存じますと共に、又深く反省を致して自から努力いたして居る者であります。

日蓮聖人の御一代の獅子吼であります四箇格言、これは日蓮門下の生命であります。然るに佛教各宗協會は『各宗綱要』の編纂に方りましてこの、四箇格言を無惨にも削除致しました。さうして、これは一部の者の言ふ事であるが故に省いても構はないといふやうな、各宗協會の條規を無視したる處置を致したのであります。これに對して本多上人は斷然起つて正義をお叫び遊ばしたのが、有名な四箇格言問題であります。日蓮門下の清き僧俗を團結して、青年僧本多日生上人が天下を股にかけて獅子吼遊ばされた當時の意氣込は、實に日蓮主義勃興の大機運を促したものであります。私は現在の情勢、殊に國際聯盟の關係に於て日本の重大なる危機と説はれて居る時に方つて、當時の有様が實に不思議なる因縁に依つて結ばれて居ることを深く痛感する者であります。當時日生上人は、堂々と正義を以て聞はれたの

顯本法華宗の開祖日什上人は、六十七歳の御年に日蓮聖人の一代の名著たる開目抄、如說修行抄の三卷を拜せられて、過去に玄妙能化と誦はれた天台の學問を一舉にしてお捨て遊ばして、日蓮聖人に歸伏せられました。而もその歸伏せられるや、此の三卷の書に對して日什は歸伏するものなりと仰せられて、日蓮大聖人の御胸より垂れ給へる御慈悲を心證して、日蓮聖人の御胸直々に直接の法水を汲み奉るものなりと仰せられて居ります、顯本法華宗の精髓は實に此處に基礎を置くものであります。

本多日生上人は實に日蓮主義の爲に御一代の活動をせられました、而もこれは單なる日蓮主義の爲といふことではありません、日蓮主義なるものは小さな一門下の私有物ではない、佛教統一大施を捧げ立つものであります。日生上人が統一團を團結せられた當時の有様に至りましては、私共之を回想致しまして、いつも道念を淨からしめ、さうして活動を新にして參らなければならぬと存じます。今日意義ふかき建國祭に方りまして、又新たなる會堂が結成せられ、而も財團法人統一團としての本部が此

はない、これは實に佛教の教理の指さす所であり、日蓮大聖人の生命とする所である、而も各宗の申合せを破棄してまでも此の大事な條項を削るといふことはどういふ事であるか、此の問題を提げてお起ち遊ばした當時の本多日生上人の意氣活動は、天下を悟伏せしめられたものであります。今日日本の國際聯盟の上に於ける立場は、甚だ此の事例に相似たるもの多きことを思ふのであります。日生上人の御活動は、正義は遂に最後の勝利を得るものであるといふ事をお示し遊ばしたものであります「惡は多けれども一善に勝つことなし」といふ日蓮大聖人の御意氣を以てお起ち遊ばされました。今吾々日本國民と致しましては、國際聯盟の蒙を啓いて日本の正義を振り翳して起つ秋であります。

而もこれは唯だ武力を以て解決せらるべきものではありません、ただ一國の富の力を以て解決せらるべきものではありません。上來先輩諸氏に依つて示された如くに、一に思想の問題の上に於て、而も又精神の内容を摑むところの宗教の信念の上に於て、此の問題を解決して參なければならぬものであります。

『能く言へて行ふこと能はざるは國の師である、能く行ひて言ふこと能はざるは國の用となるものである、能く行ひ能く言ふは國の寶である、言ふこと能はず、行ふこと能はざるは國の賊である』とは曾て一たび佛教の中心的統一經典たる法華經を以て時の英聖文武の帝桓武天皇の御歸依深かりし最澄法師傳教大師が、我國を法華經を以て統一しようとして挨拶を申述べる次第であります。(拍手)

### 同師會員 河 合 隆 明

がらその國家に於ては實現せられなかつた。獨りこれ等の釋尊といひ、或は孔子といひ、或は西洋に出でたる基督の理想を眞に體現して、地上に理想的君主國家を奉戴し來つたものは、實に神武建國以來我が大日本國あるのみであります。

さて我國に於ては、天皇陛下は國民をもつて何と仰せられるでありますか。おほみたから」とは即ち陛下が國民を樹はせ給ふところの御言葉であります、吾々は國家の寶とならなければならぬ。然らば國家の寶としての吾々の精神的の眞の自覺は何であるか、これを大聖釋尊の御教に聽け! 印度に於ける轉輪聖王は七つの寶を有つて居ると謂はれる、或は輪寶といひ、或は摩尼寶といひ、或は居士寶、在家の道に明るい人である、或は玉女寶、非常な形容端正の人である、或は象寶、馬寶、兵臣寶、いろ／＼な寶を具ふるものであると説かれて居るが、佛法に於ては、國王が寶を有つて居るといふ風な關係ではなくして、釋尊はこの轉輪聖王の思想を一轉して、「我は如來法王なり」心靈界の寶たる佛陀は即ち世の中に於ても寶なりとして自から佛寶と宣言せら

れ、その説くところの法は實である、世の眞理の光であるといふので法寶といひ、又この教を信じ、法を修行するところの者は、僧侶であつても俗人であつても、佛法の眞の修行者はすなはち世の實であるといふので僧寶と仰せられた、所謂佛、法、僧の三寶であります。吾々が眞に實たる實を擧げるには、その三寶尊に根本の意味に於て歸依しなければならぬ、それを教へるのが即ち法華經の本門の思想であります。それ故吾々はこの國家の實たらんが爲に佛法に聽き、就中法華經に聽いて、その法華經を以て國家を統一しなければならぬ。

統一團の使命は、小にしては自己一身の統一である、知識と感情との統一、理性と信仰との統一、智情意の統一であるのみならず、往いては一家庭内の統一、また社會の統一、國家の統一——國家の統一は即ち國家的に於ける精神と身體との統一である。その精神とは、法華經が中心になつて佛教を統一し、更にその眼光、眼識を以て神道、儒教を統一し、我國固有の獨創的精神文明であるところの神儒佛三教を開闢統一し、此の光を以て、いはゆる『日は東よ

り西を照す、佛法かならず東土の日本より出づべきなり』と日蓮聖人が六百餘年の昔に宣言し豫言せられました、それを事實に於て吾々は具現して行かなければならぬのであります。往いてはこの統一の真意は、天地宇宙三世盡十方法界を照し給ひ、樹はし給ひ、常に我等を恵み給ひ、導き給ひ、救ひ給ふところの本佛釋迦牟尼如來法王世尊の精神の盡十方法界に於ける統一的無量の慈悲の御はたらき、それを詠觀する所まで到らなければならぬのであります。

此の思想を釋尊より承繼がれたる日蓮聖人立正大師、更にこの法統の正脈を擁護して起たれました現在に於ては我等の恩師聖應院日生上人、その日生上人の御囑命の下に、不肖吾々は鞠躬如として此の教を口に説き、且つ又行はんとするものであります。諸君、今や彼のマルクシズムの徒、赤化主義の輩は口にも説き、且つ又身に行ふ、併ながらこれは人類を毒し、國家を壞るところの眞に全世界に於けるバーチスであります。吾々はそれとは違ふ、吾々は無上の正法を以て口に説き、且つ又みづから身に行つて

眞に衆生を濟度せんとするものであります。以て佛祖の大恩に報じ、法の恩に報じ、日蓮聖人乃至代々正法正義傳統の諸大先師、近くは聖應院日生上人の大恩の萬分の一に報ひ奉らんとするものであります。

恩師日生上人が昭和六年三月十六日、日蓮大聖人の六百五十遠忌の歲に、將に御臨終遊ばされんとするに際して、吾々を其の御枕邊に近く御呼び寄せになりまして、嚴然として仰せになりました遺訓は

佛祖の照鑑を仰ぎて日本文化建設のために心を致して呉れんことを予は望むと傳へて呉れよ、それが予の本懐である。汝等教義の精要を死守せよ。

と仰せ遊ばされました。日蓮聖人は弘安五年十月十

### 祝辭

は嚴然として法を知り國を思ふ、法の恩に報せんことを、我等に遺訓として遣し給うたのであります。我等は此の恩師の御遺訓に對へ奉らんと深く決心致しまして、皆様と共に佛祖三寶尊、また至尊陛下の大恩に報ひ奉らんことを誓願いたす次第でござります。南無妙法蓮華經。(拍手)

森嚴に莊重な式典は長時間に亘るも、大衆は肅然として各々襟を正し、手を膝にして咳唾の音一つだにも聞えず、時々大拍手の轟起るいかにも崇高な宗教的雰圍氣が滿堂に充ち溢れてゐた。

やがて來賓として文教の主腦たる鳩山文相は特に左の祝辭を吾人に與へられた。

池上の地に立正安國論を講ぜられました。即ち諄々として文永・弘安の蒙古來、内には幕府が政治を執り、外には蒙古が國を襲はんとするこの國難來に對して、臨終の前夜なほ立正安國の大義を説かれて、遂に閻焉として涅槃せられたのでありました。我が恩師日生上人は、再び起つ能はざる病篤の御身にな

國民教化ノ爲ニ畢生ノ心血ヲ注ガレタル故本多日生上人ノ宿願ハ今ヤ一步ヲ進メテ財團法人、統一團ノ出現トナリ其ノ根本道場トシテ新會館ノ竣工ヲ見ルニ至リタルハ誠ニ昭代ノ一慶事ト謂フベク斯道ノ爲予ノ欣喜ニ堪ヘザル所ナリ。

レ危ク文化ノ進展ニ伴ヒ道義心漸ク其ノ衰頽ヲ見ントス財團法人統一團ノ厥起スル眞ニ以アリト謂フベシ。

惟フニ本團ノ理想ヤ至高至純ニシテソノ遂行ヤ至難至遠ナリト謂ハザルベカラズ然レドモ牛歩報マザレバ克ク千里ニ達ス、團員各位庶幾クハ不拔ノ信念ト不撓ノ意氣トヲ以テ協心戮力理想ノ遂行ニ精進セラレントヲ。

爰ニ建國紀元ノ佳辰ヲトシテ會館落成ノ典ヲ舉ゲラルニ臨ミ聊カ所懷ノ一端ヲ陳ベテ祝辭トナス。

昭和八年二月十一日

### 文部大臣 鳩山一郎

續いて極めて繁忙な警視廳の浦川秀吉搜查課長は吾等に向つて大略左の如き祝辭をお述べ下さつた。

### 祝辭

本多日生上人貌下の御遺徳と、統一團員御一致の御力に依りまして、この統一會館が建設せられまして、今日目出たく開館の式典を擧げられるに方ります。

密かに共產黨員の實際の働き、彼等の實際の生活、彼等の實際の運動など、これ等新聞に現れない所の實情を具さに目撃致しまして、自ら深く考へる時に於きまして、これはやはり宗教といふものが無い結果である。日蓮宗で申しますならば、法華經に反く所の罪であるといふ風に、自ら體験致したのであります。

最近に於きましては皆様も御承知の通り或は所謂バラ／＼事件、又はギャング事件、その他の殺人強盜といつたやうな、物騒な方面的仕事を私は擔任致して居ります。別に私がさういふ事をする譯ではありませんが、私はその檢舉の方をやつて居るのであります。これ等の事に就きましてはかなり皆様の耳目に觸れる問題でありますから、新聞紙等で能く御承知のことゝ存じますが、併ながら新聞紙に現れた所と實際とは又餘程そこに味ひの違つたものがあるであります。紙上に文字となつて現れる所の事柄

して、私もその席末に列することを得て、一言茲に  
お慶びの辭を申上げる機會を得ましたことは、無上の光榮とする所であります。

私が本多上人御在世の頃にお眼に掛りましたのは昭和三年の共產黨檢舉の後であります。當時三・一五事件、四・一六事件等の檢舉の當事者と致しまして聊か仕事を致しました關係から、それ等の思想上の事に就て實際家として話をせよといふお言葉がありましたので、二三回統一閣その他に於てお話ししたことがあるのであります。始めて本多上人貌下には拜顔して、何となく頭の下るやうな崇高なる御様子又その警咳に接するに及んで、堂々たるその獅子吼悉く私の膽に銘じて忘れることの出来ない印象を與へられたのであります。悲しくも上人貌下にはその後溘焉として御遷化になつたのであります。當時私は共產黨運動の實際に就いていろいろとお話を申し上げました。さうして貌下のお話を自ら承り、

實現したのであります。吾々としても身毛のよだつやうな感を致すのであります。併ながらそれ等の犯人を眼の前に置いて調べる時に於て、別に世の中の人が想像するやうに、直ぐにその犯人が私共に飛出つて鋸を以て私共の手や足を切りさうな人間でもあります。調べる時にはやはり涙を流し、或は憐みを乞ひ、全く一個の優しい人間に過ぎないのです。洵に人々の人間はその心の中に所謂佛性といふものを具へて居ることを、斯の如き時に於て認めるのでありますけれども、その爲して來つた業を見る時には、又非常に恐るべき餓鬼畜生の行爲をやつて来て居るのであります。

「惡の華を咲かせる所の導因とも言つたやうなものが到る處にあるのでありますから、吾々社會を淨化し、國家の健全を圖る爲には、何を描いても先づ心を清くすること、即ち宗教の力に依り、私共日蓮の教徒ご致しまして、この法華經に背く心を退治して、日蓮主義の大施の下にこの世の中を淨化するといふ意氣込の下に、各自が一致して進まなければならぬ秋であると考へるのであります。

而して宗教も澤山ありますが、現代に處しては激刺たる生氣ある所の宗教でなければならぬ。中には老人ばかりの宗教のやうなものも随分多いやうであります。或は日蓮宗の宗門の中にも、非常に退要的な態度を持つて居られるやうな方も認めるのでありますか、現代に於て宗教を説くなれば、須く激刺として元氣あり、總ての惡に對抗してこれを克服するやうな氣力の有る宗教でなければならぬやう考へます、幸にしてこの統一團の方々は洵に元氣激

るのであります。私自身の腹の中にも隨分餓鬼畜生のやうな精神が宿つて居るといふことを、茲に率直に申上げます。佛性も具へて居りますけれども、一面に於ては私の心中にも、人を取締りながらも随分自ら恥づるやうな心が宿つて居ります。これを退治するのが、即ち吾々向上的途に志し、又宗教に志す所の人間の努むべき事ではないかと信するのであります。總てのこの世の中の罪惡、大きな問題では今申しましたやうな共產黨といふやうな社會國家を賊する所の罪惡、個々の問題では殺人、強盜、その他小は搔拂、或は掬摸、或は暴行、脅迫といふやうな犯罪に至る迄、悉くその人々の心の中に存在して居る所の一つの惡の塊りから發するのであります、斯の如き問題を實際に於て具さにこの兩眼で認めます時に於て、實にこの世の中といふものは非常に罪惡を誘ふ所の各種の事柄が鬱積して居る、殊に現在のやうな混沌たる思想界に於きましては、いろ

刻として居られることを、先刻來の祝辭或は御感話等に於て、洵に心持よく拜聽致した一人であります。

私は今日は末席に於て皆様の御高話を拜聽したいといふ考で參りましたので、別に何も腹案もありますぬ。取止のない事を申上げて甚だ恐縮に存じますが、これを以て今日の祝辭に代へたいと存する次第であります。(拍手) (文責在記者)

### 編輯室より

○本號を開館特報致すに就て、餘日詒き等の關係より諸事甚だ不行届となつて申譯もありません、各位の御宥恕を乞ふ次第であります。

○先月から開講されつゝある、小林先生の「法華經講義」をば準備出来次第順次連載させて頂きます豫定ですから、お含み置き願ます。

○各地からよい教説を貰つゝある、次號に割愛せねばならぬことを陳謝致します。(満生)

又男爵井上清純閣下は珠の如き温容をば悠然として演壇に現はされ、一場の極めて意義深い感話を與へられた。左記はその要旨である。

## 感 話

本日は皇紀二千五百九十三年の紀元節であります。明治維新は、この二千五百餘年前の神武天皇御創業の日に復つたのであります。その御精神に基いて明治の御維新は回轉されたものと思ふのであります。奈何せん、明治維新的機運は明治五六頃までに消磨しまして、爾來その激刺たる所の精神性は抜けてしまつたのであります。この事が非常な我國の不幸を持ち來したものであります。國民の責任と申しますか、或は指導の位地に立つて居る者の責任と申しますか、洵にその後の日本の状態は、文化的に言つたならば墮落の路を辿つて居つたのであります。今お話になりましたあらゆる事象「阿脩羅も亦盛なり」というやうな現代の有様は、悉く茲に胚胎して居るものと私共は考へなければならぬのであります。

我國は何故に維新といふのに古に復るといふことであるのか、いつも我國の改革は他國に類例なき所の改革をやるのであります。革新と言ひながら必ず復古といふものが伴ふのであります。先日もお話申上げたかと思ひますが、我國には三大改革があつたと思ひます。第一の改革は即ち二千五百九十三年前の神武天皇の御東幸でありまして、第二回は大化の改新であり、第三回明治維新であります。今日世間では神武天皇の御創業を以て建國と稱へて居るやうでありますけれども、建國といふ語を用ひるならば、天照大神の時代に遡らなければ、建國といふ語を使ふことは出来ないと私は信じて居るのであります。それありますから我國に於ては建國といふ文字を使はないで、創業肇國といふ語を用ひる方がより適當であると考へるのであります。國ヲ肇ムルコト宏遠ニシテ德ヲ樹フルコト深厚ナリといふことが教育勅語の冒頭に謳はれながら、この事の本當の意味合が出て居らぬことが、一番日本としての遺憾な點であらうかと思ふのであります。法華經に謂ふ所の「久遠」といふ意味合が「宏遠」といふ意味合と同じであります。始め無きものでなければ、また終り無きものと謂ふことが出來ないのであります。我國の國を肇むることは始め無き大昔であります。それは一万年昔も宏遠であります。又一万年昔も宏遠であります。この事を信仰することなくして、我が國體の大精神といふものは判る筈がないのであります。茲に宗教的、哲學的思想が無い爲に、ただ宏遠と言へば、三千年の昔も宏遠であります。併しながら一たび法華經の思想を以て見ますならば、一万年とか一千年とかいふことは同じ事であります。それは一瞬間にも當らないのであります。久遠の昔から日本の國が肇つて居ることを先づ日本國民が信仰しなかつたならば、我が國體を意識することが出來ないと考へるのであります。

然るに明治御革新は、第一回の改革であつた所の神武天皇の御東幸、櫛原宮に於て御位にお即きになつた所のあの精神に依つて開かれたものであります。その精神は何かといふと、「天業を恢弘し、天下を光宅する」といふのでありますから、獨り日本民族だけが文化を有ち、享樂するといふことではないのであります。往ては亞細亞を救ひ、人類の文化を光宅するといふのでなければならぬのであります。斯ういふ大きな考を何て神武天皇が櫛原宮に即位をされて爾來二千五百九十三年、人類の歴史としては驚くべき永い、幽遠なものであります。

先年英國の大新聞である所の倫敦タイムスが、我が英國は澤山の記念日を有つて居るけれども、日本が有つて居る所の二千何百年といふやうな記念日を吾々が有つて居らぬことは、頗る吾々としては遺憾な點であるといふことを書いて居りました。其の通りに、我國は實に永い／＼歴史を有つて居る所の國でありながら、埃及の如く、支那の如く、その文明が中斷されないで、益々新なる文化を創造するのであります。さういふ國は亦類例が無いのであります。最も古くして日々に新なりといふ國こそ、久遠の昔から無窮に繋る所の文化國であります。唯徒に古いものが永く存するからといってそれが尊ぶべきものでなくして、新なる文化を創造することに於て尊いのであります。日蓮聖人が七百年前に宗教の改革をされたのであります。その宗教の改革たるや、新なる宗教を造り上げられたのでなくして、古くあつた所の法華經、その精神を活躍せしめられたのであります。

天皇は梅に對する澤山の御製を道されて居られるのであります。その中に明治六年の御製として、『明治天皇御製集』の開巻第一に

まさかりの梅の林にさす月の

かけさへかをる春のゆふぐれ

といふ御製があるのであります。満開の梅の林に月がさし込んで居る、その月の光までも梅の香が匂つて居るといふ御製であります。ただそれだけの御製のやうでありますけれども、熟々考へますと、日本民族ほど自然の美を觀賞し得る國民は無いのであります。久しう露西亞に駐在して居つた大使の話に、モスクバークやレーニングラード邊に居つて、未だ曾つて月を眺めて居る人に會つたことが無いといふ事を聞いて居ります。露西亞の人は月を見ても何等の感想も泛ばないのであります。況や月と梅との綜合美に至つては、到底さういふ深味のある美を觀賞することが出来ないであります。

自然に對する考がさういふことは、これは宇宙觀が出來て居らない證據であるのであります。本多上人は屢々宇宙觀、人身觀、超人觀といふことを申されて居つたのであります。况や月と梅の三つの問題が人類思想の一一番大きな問題であるといふことを言はれて居つたのであります。露西亞

人はこの大事な宇宙觀を有たないのであります。それではありますから露西亞人の中にクロバトキンといふ者が出て、宇宙を見つめて言ふのに、「汝宇宙は怪しからぬものである。折角人間が橋を造れば水を以て流してしまひ、家を造れば火を以て焼いてしまふ。一體人類の文化といふものは、宇宙と闘つて贏得たものである」と言つて、この自然天然といふものを向ふに廻して征服するといふ語を使つて居るのであります。今日山に登つて山を征服するといふやうなことを言ふ人がありますけれども、これは皆間違つた宇宙觀を眞似して居るのであつて、吾々の祖先は決してさういふ宇宙觀を有つて居なかつたのであります。朝起きたならば昇る太陽に向つて拍手を打つて、天道様と言つて人格化して居るのであります。太陽を見てお日様と言ふのであります。これは日本人が立派な宇宙觀を有つて居つた證左であります。即ち宇宙觀を有つことは、日本人が大きな宗教を有つて居つたといふことであるのであります。宇宙觀と人身觀と超人觀とに對して明確なる解釋を與へたものが眞の宗教であるとしたならば、日本人は深き宗教心を有つた民族と申さなければならぬのであります。徳川幕府の時代に於ては、今お話になつたやうな女子供までも慘殺するやうな強盗は殆ど無かつたといふことがあります。我が民族はさういふ殘虐性を有つた國民ではなかつたのであります。然るにその日本人がどうして今日のやうな荒んだ思想になつたのでありますか、これは食事の關係その他餘程深いものがあると思ひますけれども、第一に明治維新以來、人心を導くべき教の中に宗教を無くなしてしまつたことが、最も殘念な事だと申さなければならぬのであります。(拍手) 吾々は太陽を見ても自分と一體と考へるのであります。暮れ行く空の雲の色、有明方の月の光までも心を催ほす思ひなり」と涙を垂れて感歎された所の日蓮聖人を私共は學ばなければならぬのであります。たゞ月が綺麗だといふばかりでなく月の中にも佛が在ますやうな氣がする、又月が梅を照らすその光までも梅の香がするといふやうな、自分の一端に宇宙あり、宇宙の一端に我ありといふやうな、神人合一するところに眞の宗教といふものは起つて来ると思ふのであります。宇宙を敵にして闘つて贏得たものが人類の文化であるといふやうな、さういふ考からマルクスのやうな思想が出て來るのであります。この惡思想を退治するにあらずんば、到底人類の幸福安寧を期することが出来ないのです。

更に人身觀に於きましてはどうであるかといふと、今日は所謂デモクラシーといふ思想が蔓つて居りますが爲に、これが惡平等になつて居るのであります。法華經は決して人類は平等であるとは説いて居らないのです。十界に分つてこれを説いて居られるのであります。その十界は各々佛性があり、それを開發することに於て佛とも成り得る。佛と成り得る性は有つて居るけれども、皆總てが佛ではないのであります。人間といふものは抑々澤山の缺陷を有つて居るのであります。その缺陷を自覺するにあらずんば、到底人類の文化といふものは平穏無事に行かないといふことは、數年前に釋尊が説かれた事であります。これは實に千古の名言であります。

更に超人觀に就て言ふならば、この宇宙は機械的に運行して居ると、今の學問は考へて居るのであります。けれども、吾々の祖先の頭脳に映じた所の天地法界は、そんな機械的のものではないのであります。宇宙の中には大生命がある、佛と言ひ、神と言ひ、その人々に依つて達ふかも知れませぬが、大きな魂があつて、それは惡の魂にあらずして、善の魂であるのであります。善い事をしたならば必ず善果あり悪い事をしたならば必ず惡果ありといふやうな、因縁因果の堅き法則に依つて結ばれた所の實に愉快なる世界である。そこから神様があり、佛様があるといふ者が起つて來るのであります。この考が無かつたならば、人の知らない所に於ては如何なる悪い事も出来るのでありますから、人類を神無き世界に置いたならば、恐るべき社會が出來て來ることは當然な事と申さなければなりません。

今や我が國民は、吾々の祖先が有つて居つた所の此の三つの問題に就きまして、非常な間違ひを起して居るのであります。殆どこの三つの問題には觸れて居らない、低級なものになつて居るのであります。

我國の美點はこの爲に消磨され、我國の長所はこれが爲に失はれつゝあるのであります。今や我國は表面は美しいやうに見えて居りますけれども、一たびこの文明的の皮を剥いだならば、恐らく驚くべき所の世相を現して居るのであります。

この世相を如何にして淨化することが出来るか、偉大なる人の力を藉るにあらずんばそれは難しい

であらうと思ふのであります。併ながら日蓮主義者はこの大任を背負つて居るのでありますから、難しいと書いて解意ることは出来ないのであります。今日表面に現れた文明といふものは美しいやうに見えて居りますけれども、其の内面に於て我國の病氣は餘程病膏肓に入つて居るものがあるのであります。これを治療するには大きな光が必要なのであります。この光は法華經の力を藉らなければ出て来ないと思ひますが、法華經を如何に應用するのか、法華經をどういふやうに用ひて現代の社會を治療するのかといふことは、人の力に俟たなければならぬ事であります。どうか諸君はこの國に對して今日の日本は斯ういふ病氣を有つて居るのでありますから、出来るだけの力を奮つて、現世の救治の任に當られんことを希望いたす次第であります。之を以て今日の祝辭に代へたいと存じます。(拍手)

次いで本多日生上人とは最も御縁の厚い自他周知の佐藤鐵太郎中將は、幾多萬障お差繰りを頂いて御來館の上左の意味に於て祝辭をお述べ下さった。

### 祝辭

今日少し差支があつて遅れて参りまして拘に恐入りました。その後皆様の仰せになることを伺つて見ますと、一々御尤もで、私が申上げたいやうな事を殆ど仰せられまして、別段にこれといふてお祝

を申上げる辭も殆ど無くなつてしまつたやうに感じます。殊に只今井上男爵が仰しやつた事などは、私が常に一生懸命になつて皆様にさうなつて戴きたいと思つて叫んで居ること、一致しまして、非常に愉快でございました。實は私この演壇に立ちまして、今日はどういふ日かといふことを考へ、又このお催しはどういふお催しかといふことを考へて見ますといふと、實に感激無量で、何と申して宜いか、殆ど申上げる辭を知らないのであります。

私は本多観下に對しましては、どうした譯か存じませぬが、眞にお慕しく存じて居りました一人でありますて、理窟も何もない、何となく温い心を以て拜して居りました。又観下も私を餘程可愛く思召して下さつたのであります。それ等、これ等を考へ、御遷化になつた時の事、私は丁度旅行中であつた事などを考へますと、所謂萬感交錯、何を言ふて宜いか判らなくなつてしまひます。たゞ今日は拘にお目出たい、それだけしか申上げることが出来ない状態であります。

今日茲に伺ひまして第一に感じましたことは、同師會のお方々の勢ひが非常に強い、これならば……と私は感ぜざるを得ないのでありますて、非常に愉快に存じます。これならば本多観下がお遣し遊ばした御事業をお繼ぎになるだけの資格があるだらう。本多観下は決して一流一派一門に着して事をなさる方ではありません。極めて雄大な考を以て、我が日本を救ひたいといふ御一念でありますたので、決して小さな事に拘泥される方ではありませんでした。併ながら本多観下の本當の血は、本當の

事を辨へた僅かな人の外は判らぬのです。その意味から考へて見まして、私は思ひます、同師會の方々は本當に本多観下の血を別けて享けて居られるのだらう。今迄は私生意氣ながら、少し狹過ぎはせんかと考へた事もありましたが、今日のお話を承りまして、本當に心の純なるものがあつて、その現れであるといふことを見まして、私今日同師會の方々に、お詫をすると言つてはおかしうございますけれども私は聊か誤解して居りました。先刻から皆様の仰せられる所、その熱烈なることに對しては、私はこの上もなく嬉しく存じました。

今日申上げる事は何もませぬが、私は癖がありまして、何事に當つてもこれは困つたナといふ時になると、この場合に日蓮聖人様がお在で遊ばしたら何と仰しやるだらうかといふことを考へますこれが私の爲には非常に有難い教となつて居ります。その次に出来るものは何かといふと、本多観下は何と仰しやるか。これは私の本心からの僥倖さる告白でありますが、この二つの事を頭腦に懷きますといふと、本多観下に伺はなくとも判断が出て来るやうに感じます。今世の中はどうでせう、先刻來皆様の仰せられましたやうな世の中であります。この世の中に日蓮聖人様がお在で遊ばしたらどんな事を爲さるだらうと、私は思ひます。同師會の人は勿論、この統一會館に於て道を説かれる人は、この壇上に登つたならば、日蓮聖人はこの場合何と仰しやるだらうかといふことを考へにつて、それと同時に吾々の心からの師匠たる所の日生上人様が何と仰しやるだらうといふことを考へて

本多観下の代理になつて、本多観下の豫ねぐと思ふて居らしやることを皆様に向つてお話をすると、斯ういふ心持を有つてお在でになつたならば、私は本多観下のお考がその儘にこの統一會館から、世界に向つて現れて参るであらうと存じます。この點が私の切望致したい所であります。（拍手）

それからこの機會に一言申上げて皆様のお聽きに入れると同時に、この統一會館に御關係の方々に申上げたい事があります、私はこの間面白い事を聞きました。實は西洋人ですらこんな事を考へるのかと思ひまして恥しく感じました。それは亞米利加のメーヴンといふ博士が、精神的に日本に憧れていろ／＼研究された、その御自分の心持を或る場所でお話になりました。そのお話に依りますと自分が日本國民の精神に就て調べて見たいといふ考を起したのは、日露戰爭當時であつた。當時自分は英吉利に居つたが、日本人といふものは何といふ自惚れの國民であらうか。この間支那を叩きつけて勝つたといふので、世界の中で最も恐るべき大國とされて居る露西亞に向つて又争ひをする、これは敗けるにきまつて居る。氣の毒なものだ、併しながら自分の分を辨へぬことも夥しい、實に自惚れの國である。さう思つて居つた所が、不思議なことにはその後の情報に依ると何時でも日本が勝つて居る。到頭あの通り露西亞を叩きつけてしまつた、驚くべき事である。この驚くべき事はどういふ所から出るだらう、即ち國民が偉いのである。偉い國民にはキット教へられて居るものがあるに相違ない。教へられて居るものは何かと言へば、第一としては歴史を讀

まなければならぬ、總ての點が歴史に現れる。そこで日本の舊い歴史は何かといふことを聞いた所が、古事記だといふ。それから自分は古事記の研究に掛つて、丁度今年で二十五、六年になります。

といふことでありました。さうしてその結論が如何にも面白いと共に、吾々法華經主義者から見ますと、この上もなく愉快な事なのであります、それと同時に、西洋人がこんな事を考へたかと、私は不思議で堪らぬのであります。それは長い話でありましたが、結論を申上げますと斯ういふのです。吾々歐羅巴の精神的文明といふものは何であるかと言へば、宗教の上にもこれが現れて居る。即ち神がこの世界を造つた、神が吾々人類を造つたといふ觀念である。所が日本の古事記を見ても頭腦に感する所から見ても、日本人はさういふ思想ではない。そんな神が造つたといふのではなく、西洋の者は神様が造つたと言ふ、日本人は神様から出たと言ふ、これは大變な差異である。最初からあるのだ。そこに神様があらはれた、吾々は神様から來た、さういふ信念で立つて居る。西洋の者は神様が造つたと言ふ、日本人は神様から出たと言ふ、これは大變な差異である。神様が造つたものは、お互ひ個人々々の間が繋りが無い。神様から出た者は皆兄弟であり、親子である。茲に非常な尊い眞理が含まれて居る。日本に最も根強く入つて居る所の支那の文明、印度の文明、詣り孔子様やお釋迦様の仰せられた事も、他の國にはうつらぬが、日本人には直ぐうつる、日本は實に何とも言へない尊い國であるといふことを始めて感じた。兎に角世界の人類を

本當に導いて幸福にして行く上には、日本のこの精神、神様から吾々は出て來た。神様それ自身の延長であるといふこの觀念クラキ尊いものはない。これだなと自分は感じた。

斯ういふ意味の事を話されました。私は實に有難く思ひましたと同時に、日本人などはこの頃間違つた事を言つてワン／＼やつて居るのに、西洋人が斯ういふ事を考へたかと思ふと非常に恥かしく感じました。私生意氣ながら申上げます。この御精神を皆様がお有ちになつて、さうしてこの統一會館をおほし立てられましたならば、法華經そのものが異つた味ひに於て出て來はせんかと思ふ。

それから今日のお目出たい席に一言申上げて置きたいのは、この頃のやうな世の中に、本當に法華經の心持を日本國民に與へるといふことは實に難かしい。昔の時代に於て法華經を行ふよりもモソト難しい、それに就て私思ひますには、化城喻品の意味合を皆様がお考へになつたら宜からう。實は私の所に或る友人が參りまして、「法華經を何通讀んで見てもおかしな事が澤山ある。殊に化城喻品などは餘程おかしなものだ。あんなものがどうして彼處に出て來たか判らぬ」と申しました。その時に私はどういふ譯でありましたか、トイと想ひ起しまして、「いや、それは何でもないさ、あれは富士山の八合目に公園地を造つたことだよ」と言ひました、所がその友人は餘程研究して居つたと見えて「判つた／＼、成程富士山の八合目に公園地を造つたことだ……」斯う言つて大變感服しました。さう言はれて見ると、私もその言葉に依つて又一層深く面白く感ずるやうなことが出て來た。私は唯だ、何

氣なくさう言つたのでありますけれども、皆さんが富士山に登るといふと、暑い時に疲れてモウ嫌やになつてしまふ。八合目ぐらゐ迄登つて見ると「疲れてしまつた、モウ歸らう」と言ひ出す、これは人情です。所が彼處に公園地が出來たとすると「此處で一つ遊んで行かうや、美味しいものでも食べて行かうや」といふことになると、思はず知らず公園地に入る。登ることも忘れててしまひ、歸ることも忘れててしまひ、兩方共に忘れてしまつて公園地に入る。そこで公園地に入りました相當に休んで疲れも抜けた、「サア、もう歸らう」その時に誰か居つて「君方は何の爲に此處まで來たのかい、富士に登る積りで來たのではないか、頂上はモウすぐ其處だよ」さう言はれて「ア、さうだ、それなら登らうと」言つて元氣よく頂上まで登る。そこの意味合を教へる爲に化城喻品といふものが彼處にあるのだといふことを、更に泌み／＼と感じたのであります。それで私は思ひます。この頃はだん／＼と世の中が荒んで來まして、悪い人もあるけれども、又或る方面に於ては道を求めるといふことが非常に熱心になつた氣味もあります。さういふ人が八合目ぐらゐの所で閉口した時に、「モウ直ぐ其處だよ」と言つて化城喻品のやうな意味合を教へて下さる、その教がこの統一會館から出たならば私は非常に宜からうと思ひます。(拍手)

その邊の事から考へますと、これから後は非常に面白いと云ひながらも、そこに望の洋々たるもののが存すると思ひます。私は最初に申上げた通り何も申上げる事はありません。思はず感する

儘に駄舞を弄しましたが、たゞお目出たいといふ心持を申上げたいだけであります。皆様、今日はお目出たうござります。（拍手）（文責在記者）

續いて日生上人の最も御信頼深かつた、又能く師事されて居た京大總長山田三良博士は遙々韓京から祝辭を御贈り下さつた。

因に博士今天人は、日生上人御遷化の約二旬ばかり前に何となく品川にお見舞ひ遊びし、其のお元氣の薄らいた御尊容にいたく御心痛なされて種々御注意を下さつたり、又特に日生上人お好みの肌着をお贈りになつたので、上人は一日に三通も感激の謝狀を贈られた事があり、今更追憶新なるを覺ゆる次第である。

### 祝辭

統一會館ノ建設新ニ成リ本日紀元節ノ祝日ヲトシテ開館ノ式典ヲ舉ゲラル。由來伽藍佛法ノ現狀ハ殆ド弔祭ノ事ニ泥ンデ直接社會民衆ニ接觸セズ、親ク世道人心ヲ指導スルモノ甚ダ稀ナリ。故本多日生上人ガ夙ニ其ノ退嬰的因襲ヲ陋トシ自ラ天成ノ英資ヲ提ゲ、内ニ燃ユルガ如キ護法ノ誓願ヲ懷テ專ラ佛法精神ノ發揚ニ盡瘁セラレタルハ今尚人

ノ記憶ニ新ナル所ナリ、而シテ其ノ護法的精神ハ上人ニ感孚セル人々ノ間ニ今宵ホ脈々トシテ流レ、其ノ師ヲ思フ志ノ切タルト相俟テ本會館設立ノ議ヲ生ズルニ至レリ。今ヤ財界ノ情勢ヨリセバ頗ル至難ノ事ニ屬ス、然ルニ上人ノ遺風ヲ欽慕セル同師會ヲ中心ニ、上人ノ遺志ヲ體得セル人々ハ奮然トシテ之ニ當リ、廣ク同志ヲ説キ同信ノ士ニ懇ヘテ東奔西走殆ド席暖ルノ邊ナカリキ、其ノ法統愛護ノ至誠ト止暇斷眠ノ精進トハ能ク人ヲ動カシ、篤信ノ士ノ外護ヲ得テ遂ニ帝都ノ一角ニ法華道場ノ落成ヲ見ルニ至レリ。今ヤ本會館ノ機能ヲ發揮シ社會教化ノ目的ヲ實現セントスルニ當リ、更ニ同師會並ニ之ガ外護者ノ翼賛ニ負フ所多キハ言ヲ俟タザルモ、幸ニ穢部満事氏ノ如キ信仰的人格者ガ其ノ衝ニ當ラル、コトハ吾人ノ最モ意ヲ強フル所、殿堂ト經營其ノ人トヲ得テ是ヨリ法華經精神ノ社會的普及ニ貢献セラル、コトハ洵ニ同慶ニ堪ヘザル所ナリ。

茲ニ開館ノ嘉辰ニ當リ、遙ニ一言ヲ寄セテ祝意ヲ表シ、併セテ其ノ健全ナル發展ヲ祝福ス

昭和八年二月十一日 於京城

### 法華會代表 山 田 三 良

顯本法華宗笠川日堂猊下は、開館式には必ず隨喜參列致すべき所存であつたが、不得已寺用が差起つて残念ながら缺席するからと、御鄭重な會館竣工の御歎びと同時に特に御挨拶を寄せられたことを感謝して、こゝに重記する。

日蓮宗の柴田一能師は遙々八王子の方から御尊來を頂いて、左の祝辭をお述べ下さつた。

### 祝辭

本日お目出たい紀元節をトして本會館の落成開館式をお舉げになりまして、私もこのお慶びの席末を汚す光榮を得まして、同時に聊か御祝辭を申上げなければならぬやうな順序になつて居りました。所が先刻佐藤閣下が御登壇の時に、既に先刻來多數の御祝辭なり、御感想があつて何も申す事は無いと仰しやいました。それから尙顯本法華宗の管長猊下、又

たゞ今日伺ひました印に一言祝辭に代へて申上げたいと思ひますのは、この道場に到着致しますと共に、フト頭腦に泛びました事は、多年の苦心その效顯れて、茲に巍然たる會館が落成され、その落成式は當事者が苦心調査を重ねて、最も目出たい日をお選びになつたに違ひない、即ち開館の初めであるから、茲に國家の紀元節として、吾々國民が最も心を盡し、誠心誠意を以てお祝ひ申上げるといふこの日をお選びになつた。但しこれを建國と言ふか言はぬかに就きましては、先刻井上男爵閣下の詳細なお話がありましたが、兎に角一般世間の意味で今日を建國祭と稱へ、梅の節句と稱へ、即ち我が國家の肇まりました紀元であるといふ一般の意味で、四大節に加へられて居るのであります。

而して吾々法華經を信する者の立場から更に考へますと、十一といふ數は法華經では見寶塔品第十一であります。すなはち多寶如來の寶塔が見はれて、

これ迄説かれました述門の法華に對して、その眞實であることを御證明になると共に、これより説かれんとする本門に對して、これ亦同様一字一句誤りなしといふ『皆是眞實』の證明をなさるべく、前は述門に對し、後は本門に對する兩方面にかけて多寶如來の塔が見はれた、それが見寶塔品第十一であります。而して開館されました所のこの塔は、その大小如何に拘らず——多寶塔は五百由旬とか三百由旬とかいふのでありますから、大變な尺度、チョット吾々には判らないほどの數でありますけれども、それは分量の上の話である。精神的に申せばこの開館がやはり寶塔であります。(拍手)而して日蓮聖人が眞言から生れて眞言亡國と言はれました、その眞言宗の護國寺の門前に現れたといふことは、そこに一種の深遠な意味があると思へばあるのであります。(拍手)故に私はその意味からこの會館の落成をお慶び申す次第であります。

更にモウ一段深く立入つて第三段に考へて見ますと、たゞ物質を以て造り、或は七つの寶で飾つたものが寶塔ではあります。それも寶塔であります

私は更に第三重に立入りまして、この有形的、物質的この會館、寶塔から、今申上げますやうな二陣三陣を承るといふ日蓮聖人が續々と生れ出て、現代のこの險惡なる世相に對して、小なりと雖も恰も日蓮聖人の如くに、「我獅子王なり」とは行きますまいが「我獅子の兒なり」位のことは言へるのであります。(拍手)さうして現代を教はうといふ、即ち立正安國の主義をば實現されるやうな人々が、この會館から生れ出ますならば、これ即ち活ける寶塔であります。大聖人のお喜びは申すに及ばず、この事業の創始者でありました所の本多上人も遙かに微笑まれるであらうと思ふのであります。(拍手)

凡そ事は、大小を論ぜず、創業の才、事を考へ事を始める人物が必要である。併ながら幾ら創業の才が立派な人であり、偉い人であります、それを承繼いで守るといふ、所謂守成の器が無いといふと折角事を始めましても、畢竟それは徒勞に歸するのであります。併ながらたゞそれを後生大事に守つただけではいけない。世の中がモフト平和であるならば宜しいかも知れませんが、この世の中が今皆様の

けれども、更にモウ一步深く立入つて見ますと、寶塔とは何ぞや、活きた人間である。血の通つた人間であります。殊に佛教は、釋尊の教理教法も、それは無論世界第一に達ひありませぬけれども、併ながら釋尊の御人格、三十二相八十種好の人格を中心としたる意味に於て、斬れば血の出るやうな活きた宗教であり、所謂人間味の有る宗教であります。而してその釋尊の説かれました五十年の魂魄たる法華經に依つて立つたる日蓮主義は、其主義、教義、教法も無論優秀でありますけれども、併しその教義、教法を色讀せられました日蓮聖人の人格といふものに活きる宗教であると信じます。隨つて大聖人は、彼の阿佛房が九十歳以上の老齢を以て、交通不便なる六百五十年の昔に、一度ならず二度、三度、四度までも遙々身延の山中に大聖人を御訪問せすには居られぬといふ所の、所謂人格的魅力と申しますか、引力と申しますか、老阿佛房を身延の山中まで引きつけたのであります。而して日蓮聖人はその阿佛房に向つて「阿佛房さながら寶塔」と仰しやつた、お前が本當の寶塔であるといふ御指南から考へますと

仰しやるやうな非常時でありますから、更にその事業を二倍、三倍、十倍、百倍と發展せしめねばならぬといふ、茲に又第三重の責任があるのであります。この意味に於きまして當會館は、本多上人の遺命を承繼いで、礪部氏等の如く熱誠なる、弟たり難く兄たり難き熱烈なる信仰の有志が集まつて、人が何と言はうと、どんな誤解をしようとも、斯るものを作出かなければ已むに止まれぬといふその御誠意が顯はれて成つたのであるから、これは洵に敬服致しますけれども、たゞ財團法人になつたからモウ宜いといふのでなくして、どうか今申しましたやうにこの會館を基礎にして、更に——本多上人の御遺志が十倍、百倍、千倍となつて世の中に光輝を放つやうに一層の御奮闘御努力あらんことを偏に希望して已まぬ次第であります。(拍手) (文責在記者)

文部省の下村宗教局長は最後を飾るべく左の祝辭を與へられた。

### 祝辭



八〇

金	壹圓貳拾錢也	東京	本鄉常次郎殿	一金壹圓貳拾錢也	東京	三谷芳一殿	一金五拾錢也	東京	田中峰太郎殿
一	金 參 圓六拾錢也	高岡	島山友次郎殿	一金 拾 圓也	高岡	正三殿	一金 貳 圓也	同	沼部彌太郎殿
一	金 參 圓六拾錢也	東京	一本木悦太郎殿	一金 拾 圓也	岩瀬	正三殿	一金 拾 貳 圓也	同	吉助殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	大け殿	一金 拾 貳 圓也	同	小川	吉助殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	一金 參 圓五拾錢也	同	一金 拾 貳 圓也	同	菊地
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	光枝殿	一金 參 圓五拾錢也	同	雄三殿	雄三殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	平松	市藏殿	一金 拾 貳 圓也	同	戶松
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	和田	德治殿	一金 拾 貳 圓也	同	あさ殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	千葉縣	倉並	一金 拾 貳 圓也	同	沼部彌太郎殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	波邊	清吉殿	一金 拾 貳 圓也	同	吉助殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	近藤	靜子殿	一金 拾 貳 圓也	同	田中峰太郎殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	大音	きの殿	一金 拾 貳 圓也	同	吉助殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	小林	順義殿	一金 拾 貳 圓也	同	雄三殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	水野	長次殿	一金 拾 貳 圓也	同	戶松
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	名古屋	水野	一金 拾 貳 圓也	同	あさ殿
一	金 參 圓六拾錢也	同	一金 參 圓也	同	水野	しま殿	一金 拾 貳 圓也	同	吉助殿
右	難有入帳仕候也								
財	圓法	人	統	一圓會計					

聖應院日生上人第三回忌法要  
來ル三月十五日〔水〕左記ノ通リ相營ミ可申候間御誘合  
品川妙圓寺墓參

日生上人(レコード)  
要  
姉  
床  
崎  
次  
正  
竹  
治  
二  
先生  
郎  
閑  
其他

料告廣一統	價定一統
四牛一表	一牛一
分紙	ヶ年
一	年
頁	普
一	金
頁	金
金	金
金	貲
金	貲
拾	貲
貳	拾
五	貳
九	拾
五	錢
拾	錢
圓	送
圓	料
圓	共
事	事
之	前
金	金
前	前

昭和八年二月廿四日印刷納行本（第四百五十六號）

不許複製  
印發行人人  
印刷所 碼木部溝事雄  
東京市品川區南品川二丁目一八一  
都印刷所  
電話高輪六〇二四番

申込所	東京市小石川區六ノ一七	本多日生上人	法華經要義	全金貳圓五拾錢	
「教」誌	定價一冊 送料共金壹圓七拾錢	日蓮主義心髓	全金貳圓拾錢	日蓮主義精要	全金貳圓五拾錢
「教」發行所	一ヶ年前送料其金壹圓貳拾錢	振替東京九四二〇番	聖語錄改版	特價全壹圓八拾錢	
東京市小石川區六ノ一七	申込所	財團法人統一團	一 日蓮主義本領	一 法華經要義	
振替東京一〇九四〇番	刊 月	東京市小石川區六ノ一七	一 日蓮主義心髓	一 法華經要義	

發行所  
財團法人統一團體

次 目

聖訓摘要	語
日什正師諷誦章講話（其二）	日生上人
日生上人第二回忌法要記事	梶木顯正
日生上人の追憶と其將來に對する希望	姉崎正治
○各地教信	
○寄附團費誌料領收	

號月四年八十三第

